

## 白隱の仮名法語

### 『八重律』について

加藤正俊

近世臨洛禪の再興者として知られる白隱には語録の外に、平易な言葉で民衆に語りかけた多くの仮名法語があることが知られる。語録の『荘業毒藥』も一応植物的な名前ではあるが、仮名法語には奇妙な植物名の附されたものが多い。例えば『おにあざみ』『へびいちご』『さしも草』『八重律』『やぶこうじ』などがそれで、これらの名前を聞くと私などはつい陽の当らぬ竹籠の一角を想像してしまう。このような陰湿な大地に自生する植物に、異常な興味を寄せる白隱のメンタリティを今まで問題にした人はないが、こんなところに案外白隱の宗教なり書画なりの本質を探る鍵の一つが祕められてはいないだろうか。

その白隱青年時代のエピソード

奇妙な植物名ではないか)にも記

# 京古本や往来

季刊 第8号  
京都古書研究会 発行  
〒604 京都市中京区東洞院六角上ル  
京都府古書籍商業協同組合会員  
振替 京都221040円(送付料)  
年間購読料

大日本文庫本の解説によると、同書所収の『八重律』第三巻の原本は、石井積翠軒藏するところの白隱の自筆刻本とされるが、残念ながら現在その所在を確かにし得ない。しかし縁といふものは不思議なもので、昨夏伏見の某氏がこの墨蹟が大愚と同時代の雲居寺脇の墨蹟となっていることに気付き、あわてて『白隱和尚全集』第六巻所収の『八重律』全二巻をくまなく精査したのであるが、河北氏の引用された文章をどこにも見出しが出来ず、甚だ奇異の感に打たれた覚えがある。おそらく河北氏が原文引用の際、書名を書き誤った以上、自分のような未熟僧が地獄に陥るであろうことは必定と思ひ、猛烈なショックを受け、精神的な動搖に悩み続けるのであるが、三年後、四国松山の正宗寺に在ったとき、松山藩のある武家の所で、大恩宗築の墨蹟の頗る祕重されること知り、墨蹟の尊重される所以は文字の巧拙によるものではなく、ひとえに見得悟の力によることに気が付き、以後文墨を遠ざけ昼夜精練刻苦するに至る。けだし白隱の精神的な転機を物語る一件として『白隱年譜』や白隱の自伝とされる『壁生草』(これも

にも『国書総目録』にも記載されず、白隱の専門家を自任する人々の間でも全く未知のことであった。大日本文庫本の解説によると、同書所収の『八重律』第三巻の原本は、石井積翠軒藏するところの白隱の自筆刻本とされるが、残念ながら現在その所在を確かにし得ない。しかし縁といふものは不思議なもので、昨夏伏見の某氏がこの墨蹟が大愚と同時代の雲居寺脇の墨蹟となっていることに気付いた時に、そこに引用される『八重律』の原文では、問題の大愚の墨蹟が大愚と同時代の雲居寺脇の墨蹟となっていることに気付いた時、そこに引用される『八重律』の原文では、問題の大愚の墨蹟が大愚と同時代の雲居寺脇の墨蹟となっていることに気付いた時、

『八重律』第三巻の白隱自筆本(自筆刻本にあらず)を所蔵されることが判り、而もこの自筆本と大日本文庫本を比較すると、文庫本に多くの欠落のことが知られた。

最後を『八重律』の一番ホットなニュースで終ろう。それは旧暦東京谷中の全生庵(円朝の墓所で名高い)で全く新出の白隱自筆、『八重律』(未刻)が発見されたことである。而も「ちりちり草」(これも奇妙な植物名ではないか)の別名をもつものである。これで『八重律』の名を有する白隱の仮名法語は全部四巻にもなった。白隱墨蹟は今日でも尚新しい発見が続いている。

精力的な白隱のこと、著述に就ても全集未収本がまだ出てくるような気がしてならないのである。本文庫の仮名法語にある『白隱禪師集』の中に『白隱全集』未収の『八重律』第三巻のあることを教えられ、早速調べたところ、これこそが河北氏の引用された『八重律』の原文であることが判かったのであるが『八重律』に全集未収の三巻が存在することは、『禪籍目録』

著作 花園大学助教授  
著作 近世禅林墨蹟臨拓編  
著作 文人書譜「白隱」  
著作 禪画の世界 等

歳の年、中国の巖頭和尚が末期盗賊のために首を斬られ、その叫び声が数里の外にも聞えたということを知り、巖頭のような名僧が賊難に遭遇する運命を回避できなかつた以上、自分のような未熟僧が地獄に陥るであろうことは必定と思ひ、猛烈なショックを受け、精神的な動搖に悩み続けるのであるが、三年後、四国松山の正宗寺に在ったとき、松山藩のある武家の所で、大恩宗築の墨蹟の頗る祕重されること知り、墨蹟の尊重される所以は文字の巧拙によるものではなく、ひとえに見得悟の力によることに気が付き、以後文墨を遠ざけ昼夜精練刻苦するに至る。けだし白隱の精神的な転機を物語る一件として『白隱年譜』や白隱の自伝とされる『壁生草』(これも

大日本文庫本の解説によると、同書所収の『八重律』第三巻の原本は、石井積翠軒藏するところの白隱の自筆刻本とされるが、残念ながら現在その所在を確かにし得ない。しかし縁といふものは不思議なもので、昨夏伏見の某氏がこの墨蹟が大愚と同時代の雲居寺脇の墨蹟となっていることに気付いた時に、そこに引用される『八重律』の原文では、問題の大愚の墨蹟が大愚と同時代の雲居寺脇の墨蹟となっていることに気付いた時、

『八重律』第三巻の白隱自筆本(自筆刻本にあらず)を所蔵されることが判り、而もこの自筆本と大日本文庫本を比較すると、文庫本に

にも『国書総目録』にも記載されず、白隱の専門家を自任する人々の間でも全く未知のことであった。大日本文庫本の解説によると、同書所収の『八重律』第三巻の原本は、石井積翠軒藏するところの白隱の自筆刻本とされるが、残念ながら現在その所在を確かにし得ない。しかし縁といふものは不思議なもので、昨夏伏見の某氏がこの墨蹟が大愚と同時代の雲居寺脇の墨蹟となっていることに気付いた時に、そこに引用される『八重律』の原文では、問題の大愚の墨蹟が大愚と同時代の雲居寺脇の墨蹟となっていることに気付いた時、

『八重律』第三巻の白隱自筆本(自筆刻本にあらず)を所蔵されることが判り、而もこの自筆本と大日本文庫本を比較すると、文庫本に

にも『国書総目録』にも記載されず、白隱の専門家を自任する人々の間でも全く未知のことであった。大日本文庫本の解説によると、同書所収の『八重律』第三巻の原本は、石井積翠軒藏するところの白隱の自筆刻本とされるが、残念ながら現在その所在を確かにし得ない。しかし縁といふものは不思議なもので、昨夏伏見の某氏がこの墨蹟が大愚と同時代の雲居寺脇の墨蹟となっていることに気付いた時に、そこに引用される『八重律』の原文では、問題の大愚の墨蹟が大愚と同時に

## 近世京都の本屋(四)

## 宗政五十緒

## 六、北村四郎兵衛の出版物

江戸時代の前期に、広く一般に使われた『論語』・『大學』・『中庸』	4 同 新版 同点	32 同 図	31 山城名勝志
林道春が訓点を付した、道春点四書である。この道春点四書は北村四郎兵衛家が出版していた。北村	5 首書圖解五經 同点	33 同 大絵図	32 同 図
四郎兵衛の営業開始は何時であるか明瞭ではないが、遅くとも元禄年間である。『京都書林行事、上組帳櫻目』の元禄年間の条に本屋の諸中の一人としてその名が見えている。屋号は杏林軒、五条通高倉東入ル町(塩町)で営業していいた。幕末、嘉永年間には三条通り富小路西入ル丁に移ったが、絶えた。この後を文石堂北村四郎兵衛として再興し、明治に至る。	6 同 安昌点 同点	34 同 懐宝図	33 同 大絵図
杏林軒の藏板目録が安永六年再刻の『増補和歌題林抄』に付されているので左に掲げよう。江戸時代中頃の、この店の藏板状況を知ることができる。	7 古文後集 道春点	35 衆方規矩 片カナ付	34 同 懐宝図
平安書肆杏林軒藏板目録	8 小学句読 道春点	36 医學辨解 片カナ付	35 衆方規矩 片カナ付
北村四郎兵衛	9 三体詩 同点	37 方病回春 片カナ付	36 医學辨解 片カナ付
上冊*	10 本朝年代記	38 舛解龜方集	37 方病回春 片カナ付
十一冊*	11 老経大義 片カナ付	39 万病回春牛山方考	38 舛解龜方集
十二冊*	12 大和大學鉄 ひらかな抄	40 雜說雜知問答	39 万病回春牛山方考
十三冊*	13 菅家後集 道春点付 六冊*	41 絵本玉葉々木	40 雜說雜知問答
十四冊*	14 新語園 黒川道祐 全	42 観世仮名諷 小本第入	41 絵本玉葉々木
十五冊*	15 要馬秘曲	43 下掛り同 笔入	42 観世仮名諷 小本第入
十六冊*	16 和歌題林抄	44 日用食性綱目 横本	43 下掛り同 笔入
十七冊*	17 増補和歌題林抄 読方十一冊*	45 食物備考大成 小本	44 日用食性綱目 横本
十八冊*	18 同 新刻十一冊	46 日用食性詳解 小本	45 食物備考大成 小本
十九冊*	19 鎌倉右大臣家集 三冊*	47 子昂赤碧賦	46 日用食性詳解 小本
二十冊*	20 仮名句題和歌抄 鈞月 四冊*	48 文徵明子字文 四体	47 子昂赤碧賦
二十一冊*	21 吉野拾遺 鈞月 四冊*	49 改算記大成 諸術入	48 文徵明子字文 四体
二十二冊*	22 平家肝文 三冊*	50 改算記綱目 諸術評判入	49 改算記大成 諸術入
二十三冊*	23 香之記 薬物之記 二冊*	51 今川腰越 御家流大字	50 改算記綱目 諸術評判入
二十四冊*	24 つれぐ吟和抄 二冊*	52 同 かな付 同断	51 今川腰越 御家流大字
二十五冊*	25 講諸柱立 尺珍本 五冊*	53 古状揃 同断	52 同 かな付 同断
二十六冊*	26 同 季寄いろは引 五冊*	54 同 かな付 同断	53 古状揃 同断
二十七冊*	27 同 はなひ大全 金	55 江戸往来 大橋流	54 同 かな付 同断
二十八冊*	28 婢捨とばす草句集 全	56 商売往来	55 江戸往来 大橋流
二十九冊*	29 品林軒端松 小本 五冊	57 新湊壳往来	56 商売往来
三十冊*	30 香道真伝 関親卿 二冊	58 百候往来	57 新湊壳往来
三十一冊*	31 山城名勝志 二冊*	59 庭訓往来	58 百候往来
三十二冊*	32 同 図 二冊*	60 廉劫記	59 庭訓往来
三十三冊*	33 同 大絵図 二冊*	61 英語教童子教 二冊*	60 廉劫記
三十四冊*	34 同 懐宝図 二冊*	62 御和讃 二冊*	61 英語教童子教 二冊*
三十五冊*	35 衆方規矩 二冊*	63 親鸞聖人御一代記 二冊*	62 御和讃 二冊*
三十六冊*	36 医學辨解 二冊*	64 同 ひらかた 二冊*	63 親鸞聖人御一代記 二冊*
三十七冊*	37 方病回春 二冊*	65 弘長遺法類編 智功 二冊*	64 同 ひらかた 二冊*
三十八冊*	38 舛解龜方集 二冊*	66 御伝書勧銘 小本 三冊	65 弘長遺法類編 智功 二冊*
三十九冊*	39 万病回春牛山方考 二冊*	67 同 探詐記 空齋 三冊	66 御伝書勧銘 小本 三冊
四十冊*	40 雜說雜知問答 二冊*	68 御伝抄繪解 詞署抄 三冊	67 同 探詐記 空齋 三冊
四十一冊*	41 絵本玉葉々木 二冊*	69 同 照蒙記頭書 靈譚 三冊	68 御伝抄繪解 詞署抄 三冊
四十二冊*	42 観世仮名諷 二冊*	70 同 後集 同 教授抄 靈譚 三冊	69 同 照蒙記頭書 靈譚 三冊
四十三冊*	43 下掛り同 二冊*	71 同 三篇 同 後集 同 教授抄 靈譚 三冊	70 同 後集 同 教授抄 靈譚 三冊
四十四冊*	44 日用食性綱目 五冊*	72 同 三篇 同 後集 同 教授抄 靈譚 三冊	71 同 三篇 同 後集 同 教授抄 靈譚 三冊
四十五冊*	45 食物備考大成 三冊*	73 同 二篇 同 演義 義圭 三冊	72 同 三篇 同 後集 同 教授抄 靈譚 三冊
四十六冊*	46 日用食性詳解 五冊*	74 同 二篇 同 演義 義圭 三冊	73 同 二篇 同 演義 義圭 三冊
四十七冊*	47 子昂赤碧賦 五冊*	75 同 三篇 同 近刻 五冊	74 同 二篇 同 演義 義圭 三冊
四十八冊*	48 文徵明子字文 四体 五冊*	76 同 四篇 同 隨意抄後編 七冊*	75 同 三篇 同 近刻 五冊
四十九冊*	49 改算記大成 諸術入 五冊*	77 同 妙教流通扁 九冊*	76 同 四篇 同 隨意抄後編 七冊*
五十冊*	50 改算記綱目 諸術評判入 五冊*	78 正信念伝偈口次 一冊*	77 同 妙教流通扁 九冊*
五十一冊*	51 今川腰越 御家流大字 五冊*	79 同 隨意抄後編 七冊*	78 正信念伝偈口次 一冊*
五十二冊*	52 同 かな付 同断 五冊*	80 同 畠端抄 九冊*	79 同 隨意抄後編 七冊*
五十三冊*	53 古状揃 同断 五冊*	81 勸化糸要抄 明音寺 九冊*	80 同 畠端抄 九冊*
五十四冊*	54 同 かな付 同断 五冊*	82 同 文談抄 同 九冊*	81 勸化糸要抄 明音寺 九冊*
五十五冊*	55 江戸往来 大橋流 五冊*	83 同 誓鎧抄 願立寺 九冊*	82 同 文談抄 同 九冊*
五十六冊*	56 商売往来 五冊*	84 摺紙集頭書 願立寺 九冊*	83 同 誓鎧抄 願立寺 九冊*
五十七冊*	57 新湊壳往来 五冊*	85 同 大綱抄 了恵 九冊*	84 摺紙集頭書 願立寺 九冊*
五十八冊*	58 百候往来 五冊*	86 同 动化弁要集 九冊*	85 同 大綱抄 了恵 九冊*
五十九冊*	59 庭訓往来 五冊*	87 十五経直談 九冊*	86 同 动化弁要集 九冊*
六十冊*	60 廉劫記 五冊*	88 十疑論口吹 玄貞 九冊*	87 十五経直談 九冊*
六十一冊*	61 英語教童子教 五冊*	89 因果經口次 九冊*	88 十疑論口吹 玄貞 九冊*
六十二冊*	62 御和讃 五冊*	90 讀阿弥陀偈口吹 明音寺 九冊*	90 讀阿弥陀偈口吹 明音寺 九冊*
六十三冊*	63 親鸞聖人御一代記 五冊*	91 號虫問答抄 九冊*	91 號虫問答抄 九冊*
六十四冊*	64 同 ひらかた 五冊*	92 孟蘭盆新記口吹 九冊*	92 孟蘭盆新記口吹 九冊*
六十五冊*	65 弘長遺法類編 智功 五冊*	93 高声念仏參註 九冊*	93 高声念仏參註 九冊*
六十六冊*	66 御伝書勧銘 小本 三冊*	94 高田正統伝 九冊*	94 高田正統伝 九冊*
六十七冊*	67 同 探詐記 三冊*	95 同 後集 九冊*	95 同 後集 九冊*
六十八冊*	68 御伝抄繪解 三冊*	96 真宗案疑抄 九冊*	96 真宗案疑抄 九冊*
六十九冊*	69 同 照蒙記頭書 三冊*	97 同 文義林 九冊*	97 同 文義林 九冊*
七十冊*	70 同 後集 三冊*	98 同 後扁拾遺筆 九冊*	98 同 後扁拾遺筆 九冊*
七十一冊*	71 同 三篇 三冊*	99 同 納珍勸考 九冊*	99 同 納珍勸考 九冊*
七十二冊*	72 同 三篇 三冊*	100 同 袖珍勸錄 小本 三冊	100 同 袖珍勸錄 小本 三冊

『増補和歌題林抄』には宝永三年版のそれに載らない書は一点もない。このことは杏林軒は、その間に自店の藏板権を他店に譲渡したもののは一点もない、ということである。江戸時代中頃では藏板権を他店に譲渡することは多かったのである。これは何もその店が経済的にゆきづまつたからではない。ある。江戸時代中頃では藏板権の度合いが必ずしもいえない。ただ、右に掲げた「目録」から、杏林軒の江戸中頃の藏板がどの程度あり、かつ、宝永三年ご

るから以後、安永六年ごろあたりで、どの程度、藏板点数が増加したかの大体の見当をつける参考にはなる。  
さて、右の『藏板目録』から杏林軒の出版書の傾向が知られるはずである。それを思いつくままに列挙してみよう。

第一に儒書であるが、これは林道春点のものが主である(1~5・7~9)。ほかの漢籍も出版している。

第二に本朝年代記(10)・新語園(14)・和歌題林抄(16~17・18)・はなひ大全(27)・山城名勝志(31)・山城国図(32)などは一般向きの書でロングセラーの出版物である。

第三に歌書の出版がある『和歌題林抄』(16~17・18)がその主力である。

第四に医書の出版がある(35~37・44~46)。

第五に謡曲本もわざかだが出版している(42~43)。

第六に『今川腰越』(51~52)『商売往来』(56)などの往来物や『塵劫記』(60)・『実語教童子』(61)のような寺小屋で使用する初等教科書の出版がある(51~61)。

第七に浄土真宗関係を中心とした仏教書の出版点数が多いことに注意されよう(62~111)。

第八に、その他、諺譜書(25~28)や法帖(47~48)などあって、この店の出版物はジャンルにバラ

で、どの程度、藏板点数が増加したかの大体の見当をつける参考にはなる。

さて、右の『藏板目録』から杏林軒の出版書の傾向が知られるはずである。それを思いつくままに列挙してみよう。

第一に儒書であるが、これは林道春点のものが主である(1~5・7~9)。ほかの漢籍も出版している。

第二に本朝年代記(10)・新語園(14)・和歌題林抄(16~17・18)・はなひ大全(27)・山城名勝志(31)・山城国図(32)などは一般向きの書でロングセラーの出版物である。

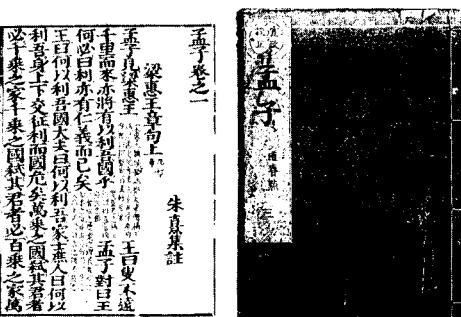
第三に歌書の出版がある『和歌題林抄』(16~17・18)がその主力である。

第四に医書の出版がある(35~37・44~46)。

第五に謡曲本もわざかだが出版している(42~43)。

第六に『今川腰越』(51~52)『商売往来』(56)などの往来物や『塵劫記』(60)・『実語教童子』(61)のような寺小屋で使用する初等教科書の出版がある(51~61)。

第七に浄土真宗関係を中心とした仏教書の出版点数が多いことに注意されよう(62~111)。



エディが富んでいた。だから、杏林軒は幅広くさまざまな種類の出版物に手を出していた、ということができるであろう。ただし、通俗的な読物はなく通俗書の出版はほとんどないから、草紙と称されるようなものはこの店の主流の出版物ではなかったと知られる。まさしく正統な本屋(物の本屋)なのである。儒書・歌書・医書・仏書を出版していた本屋といつてよいのである。この四ジャンルの図書が刊行点数の約三分の一を占めているのである。

(龍谷大学教授)

私は金もくせに古書街をぶらぶらする悪癖がある。東京の神田神保町界隈や、大阪の阪急古書のまちでは大分時間をつぶした。しかし、このつぶした時間が惜しいとは思わない。私が残念に思うのは、私は京都に住んでいるので、京都に古書店の集團地域がないことを遠くへ探求に出かけるのも一興だが、急いでいるときにはいやになることがある。出町まで行っていて、二条あたりまで戻らねばならぬ。

私は戦争をはさんで十三年ほど上海に在住した。上海では四马路会北支支部(華名亞洲文会)といふ図書館兼博物館を管理していたことがある。こここの図書館にはそんなん珍らしい貴重書はなかった。わが国会図書館の東洋文庫の方があ

（だいたい明治年間）上海での日本人のことが漢文で書いてあるのが、上海で刊行されたものだ。上史にも日本と上海との関係史にも重要な人物だ。彼は慶應二年九月から約九ヶ月上海にて、ヘボンの和英語林集成の印刷の手伝いをした。そのとき多くの日本人が上海へ渡って吟香と交友しているので、そのとき彼が書いた吳淋日記に連載された。私はこれを筆写しておいたのを所蔵しているが、それには一度京都で出版されたことがあ

## 古書街の徘徊者

### 沖田 一

や静安寺路あたりが古書の中心街だった。私は古い上海と日本との関係を調べていたので、よく古書店へは出入りした。そういううちに「文匯報」(Shanghai Mercury-1875-1930)の初年度分が製本してあるのが見つかった。これがいつに上海の吳淋日記(一名上海日記)は一度京都で出版されたことがあ

すぐれているくらいだ。奥の方に小さいい別室があつて、そこには鍵は司書長だけがもつっていた。貴重書がはいっていたのだ。それがどんなものかというと、シーボルトの「日本」や、ノースチャイナ・ペラルドという一八五〇年から上海で出ていた週刊誌の初期の一部分ぐらいのものだった。現在でもそのままであると思う。

上海から引揚げてからは貧乏がらして、古書店をひやかす余裕もなかつたが、この十数年来また痼疾が出てきた。私の興味もアメリカ文学から、上海関係や日本英学議な世界だ。

(龍谷大学教授)

も拡大された。そして探求の楽し

みも倍加した。

岸田吟香という人は、日本英学

史にも日本と上海との関係史にも

重要な人物だ。彼は慶應二年九月

から約九ヶ月上海にて、ヘボン

の和英語林集成の印刷の手伝いを

した。そのとき多くの日本人が上

海へ渡って吟香と交友しているの

で、そのとき彼が書いた吳淋日記

というものはそれだけおもしろい

ものになっている。この日記の主

要部分は昭和六年から七年にかけ

て発行された雑誌「國家及社会」

に連載された。私はこれを筆写し

ければもとの雑誌がほしい。それ

で三千何年間も探しているがいつ

に見つからない。しかし最近

小さいい別室があつて、そこには鍵は司書長だけがもつっていた。貴重書がはいっていたのだ。それがどんなものかというと、シーボルトの「日本」や、ノースチャイナ・ペラルドという一八五〇年から上海で出ていた週刊誌の初期の一部分ぐらいのものだった。現在でもそのままであると思う。

上海から引揚げてからは貧乏がらして、古書店をひやかす余裕もなかつたが、この十数年来また痼疾が出てきた。私の興味もアメリカ文学から、上海関係や日本英学議な世界だ。

# 私の蔵書(2)

## 「紅花園文庫」を訪ねて(前)

古書、古地図、かわら版、一枚  
摺等の蒐集で知られる田中良三氏  
(紅花園文庫理事長)をお訪ねし、  
氏の研究テーマを中心にして、その一分  
野としての「地図入門」といった  
ところをうかべました。が、永年  
に亘り豊富な収蔵資料に基づく地  
道な研究に取組んで来られた方だ  
けに、立派に水の例へ通り、熱っぽ  
く語られる内容は広汎にわたり、  
密度の高いものでした。内容を要  
約し、一回に分け御紹介致します。

——まず紅花園文庫といふ名称の  
由来をうかべたいのですが。  
安政二年京都御所造営に際し私  
の先祖が二百両を献金したことに  
対する謝的的な意味で、私共の屋  
号である紅屋兵衛の「紅」をと  
り、「紅花園」の名称額を時の内大  
臣・篠原修公(実父の祖父)から  
頂いたのですが、その後先祖か  
らの収蔵品や、私の代になつて蒐  
集した物を合せ、広く一般の方々  
にもお役にたつようというこ  
とで「紅花園文庫」というものをつ  
くった訳です。

——紅花園文庫としての所蔵品の  
内容はどういうものでしようか。

昔から当家に所蔵しております  
書画、骨董、古文書を中心に私が  
蒐めました刊本、古地図、かわら  
版、一枚摺等がその内容です。

——こうした資料をお求めになる  
目的と申しますか研究の課題とい  
つた点に就てはどういうことでし  
ようか。

課題は大きく分けて(一)、勤王派  
町人の研究(二)、古地図の研究(三)  
京都庶民の行事の研究(四)、石門心  
学関係、特に施行の研究、といっ  
たものですが、最も主になるもの  
(一)でありこれも二つに分けて(1)  
安政年間の京都御所造営に対する  
町人の献金目録の研究、(2)戊辰戦  
争にかかる京都町人の会計基立  
金の研究、ということですが此等  
に就て今迄学者、専門家の方々が  
発表され、それが定説となつ  
ている事柄に対し、現在私の方に  
所蔵しております古文書等の資料  
と対比し、齟齬する部分に就て、  
それが「間違ひである」ことを立  
証する為の資料、つまり定説通説  
に対する反論に必要なもののみを  
集めることにしております。従つ  
て私の求め方は外的的には雑多の  
ようですが、内面的には總て一貫

性をもつた立証資料として連がつ  
てくるものばかりです。

——なかなか難解なテーマで吾々  
素人ではゆっくり時間をかけてう  
かべいませんと簡単に理解出来  
そうもありませんので、今回はま  
ず取付き易い古地図の分野に限つ  
ておたずねしたいのですが、今迄  
の御研究で面白い事例を二、三お  
きかせ願えませんか。

地図の場合は一般的な書物に出で  
くるものでもまだ〈研究不足と  
いふか、知られていない事柄が非常  
に多いと思ひます。例へば京都の  
地図に限つて申しますと、京都市  
が二六〇〇年記念に編纂した『京  
都市史』の「地図編」といふのが  
あります。が、その中の第18図に「寛  
文二年刊新板平安城東西南北洛外  
図」といふのが掲載され、市の方  
の解説として「町の一覧表を付し  
更に公卿の一覧表を加えている」

としていますが、その公卿の一覧  
表という解説は間違いであり、また

第14回「寛永平安古図」という  
地図に記されている「通り名」が  
現在の「通り名」と違つたものが  
かれこれありとして十一点程古今

の比較がなされていますが、此地  
図の中に「町名」の方が新旧違つ  
たものが相当見られる訳です。と  
ころが「町名」の新旧の違ひに付  
ては、まだどなたも研究発表なさ  
れていませんし、「町名」専門の書  
物でも地図の上で町名が江戸時代  
初期のものと現在のものとが違つ  
ていることが記されたものはあり  
ません。元禄以降は一部の例外を  
除き次第に現在の町名に近づいて  
来ていると云えるでしょう。又同  
じく「京都市史」の「地図編」12  
の中で「天明の地図」というのが  
出でておりますが、これは当事者の  
研究不足の事例と言へる訳ですが、  
地図の解説と掲示さ  
れている地図とが内  
容が大きく違つて  
たことです。結論か  
ら言いますと「天明  
改正細見京絵図」と  
いうのは四種類ある  
ことを知らず、解説  
者は(A)の地図を見て  
解説し、編輯当局は  
(B)又は(C)(D)の地図を  
掲載したという事例  
です。(昭和49年京都  
市史地図改訂ノー)

ト①～⑤に発表済)。

この様に地図に就ては一般的の書物  
に出ていること以外にまだまだ研  
究不足の点が非常に多いと言へる  
訳です。

——成程、すると吾々が平凡なよ  
くある地図と決めつけている既成  
概念はも一度洗ひ直す必要があり  
ますね。まだ他には何か……。

それから京都地図としては代表  
的な天保二年刊「京町絵図細見大  
成」竹原好兵衛の大図と、慶應  
四年刊の同名同板元の二種類があ  
り、此等は業界は勿論専門家の間  
でも各同二図として処理されており  
ますが、内容をよく調べますと非  
常な変化が見られることで、これ  
は同一図ではなく異図として扱ふ  
べきものです。此様な見方をして  
ゆけば本邦一種類と云はれて来た  
ものでも、詳細な観察をすること  
でその違ひを発見し、異図として  
又新らしく珍品を見出すことが出  
来る訳です。業界で珍品珍品とし  
て扱はれている高価な地図を求め  
るよりは、自分の眼でこうした珍  
品珍図を探し集めた方がより楽し  
きも加わり面白いのではないでし  
ようか。

次号には後編として「内裏図」の  
詳細な分類等を中心に面白いお話  
を掲載する予定です。

(松尾正雄記)



市史地図改訂ノー

# 古文書入門(四)

昨年の本誌第五号以来、御紹介して参りました「町方関係文書」に就ては、本号で一応の区切りをつけること、致しますが、今回はその最終として元禄頃の珍書二枚を御紹介致します。一枚は五代将軍綱吉の「生類憐みの令」にか、わるもの、他の一枚は「江戸時代にも怪騒ぎが?」とも思える奇妙な一枚であります。まずは写真A・Bを御覧下さい。

## 口觸(写真A)

頃日町々に被犬病犬多有之候段前  
犬等者檻にても拵入置鹿抹に致問

敷候若相背もの有之者可為曲事旨  
洛中洛外江可令觸知者也

(端裏書)  
犬ノ事ノ御觸  
元禄十一年八月十三日酉ノ刻  
頭町塗師や町

## 相背(写真A)

曲事||「クセゴト」「法にたがう  
事」「とがむべき事」

五代将軍綱吉の「生類憐みの令」  
は歴史上天下の悪法として著明で

ありますが、これが發せられたのが

貞享四年(一六八七年)。此文書

の端裏書の恐らく此「口觸」を受

けた時控えに書き置いたと思はれ

る時期が、元禄十一年八月(一六

当八月十七日夜  
大風之節鉄砲洲  
細川之屋舗に  
落たる獸之図

← A  
↓  
B

## 毛色單色

筆写年代は不明ですが、紙質等

から前記Aとほど同時代のもので

はないかと想えられます。犬位の

大きさで、前足自ら、鼻の長さが

体格あり、眼の單色の動物。正に

怪獸としか言ひ様のないものです

## キスト(写真B)

状、譲り状、觸状等々町方にか

わる多数の資料と取組んで参りま

したが、いづれも書体の基本は御

家流とはいえ、個々の筆者独自の

書體や巧拙があり、又細字太字等

様々な書体に取組むことで、読解

力をつける為の良い訓練になった

と思います。又同時に各文書の時

代的背景並びに町方の仕組、町人

の風俗、習慣等に就ても、藤井教

授の都度適切な解説が、書物を通

して得る知識とは又異った形で、

生々しく興味をもつて吸収し得た

ような印象を受けております。又

会員諸兄の意欲的な質問も非常に効果的であったと思ひます。

今後は更に市場でまみえる機会

多い自筆本、私文書等の分野へも

序々に前進出来ることを希つてお

ります。

大キササギの如し  
前足白ク鼻の長サ  
からだ程有一眼也

(朱墨の付記)  
右獻落候、一日めニ死申候山也。  
海中ニ住ミ候ものと申事也。

(朱墨で図中付記)

是レハ目也(頭頂部の黒丸部分)

是レハ鼻ノ穴也(白丸部分)

(又後尾部分ノ付記)

毛色單色

が、或は通常の四足動物の腐爛物  
が変形し、その発見者の口伝へに  
伝へられた結果に依るものか、或  
は誰かの單なるいたづらに依るも  
のかは知るよしもありません。

九八)。永年に亘り口喧しく庶民の  
間に觸れ廻られたことが想像され  
ます。初めは善政をしたとされ

る綱吉も、大老堀田正俊の没後、  
その言行が怪しくなったといわれ、  
殊に世子徳松が早世し後継問題で  
苦境にある時、これは前生に生類

を多殺した報ひであり、又綱吉自

身が成年の生れ故に、まず大を愛  
すべしとの僧隆光の進言を盲信し、  
此悪法が発せられたといわれます。

一見簡単な「口觸」の一片ではあり

ますが、一度これに背き「曲事」と  
断ぜられるや、死刑流刑等の嚴罰

に処せられたと云われ、此悪法を  
強制された庶民の苦しみが偲ばれ  
る文書と申せましょ。

以上で昨年五月以来続けて参り  
ました「町方関係文書」勉強会の  
御紹介は一応区切りとなります  
が、或は通常の四足動物の腐爛物  
が変形し、その発見者の口伝へに  
伝へられた結果に依るものか、或  
は誰かの單なるいたづらに依るも  
のかは知るよしもありません。

資料の大部分は京都府立大学より  
拝借したものをコピーにとり、テ

キストと致しました。口上書、願

状、譲り状、觸状等々町方にか

わる多数の資料と取組んで参りま

したが、いづれも書体の基本は御

家流とはいえ、個々の筆者独自の

書體や巧拙があり、又細字太字等

様々な書体に取組むことで、読解

力をつける為の良い訓練になった

と思います。又同時に各文書の時

代的背景並びに町方の仕組、町人

の風俗、習慣等に就ても、藤井教

授の都度適切な解説が、書物を通

して得る知識とは又異った形で、

生々しく興味をもつて吸収し得た

ような印象を受けております。又

会員諸兄の意欲的な質問も非常に効果的であったと思ひます。

今後は更に市場でまみえる機会

多い自筆本、私文書等の分野へも

序々に前進出来ることを希つてお

ります。

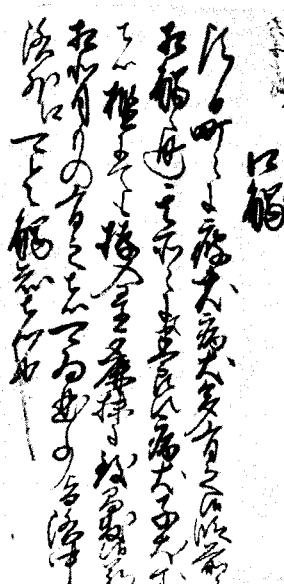
(松尾正雄記)

口觸||「クチブレ」  
頃日||「コノゾロ」||「此頃」  
施抹||「ソマツ」||「粗末」

この頃町々に被犬病犬多くこれ有  
候段、前々相觸るゝ通り其所々  
にて養ひ、病犬子犬等は檻にても  
拘え入れ置き、施抹に致す間敷く  
事たる可き旨洛中洛外え觸れ知ら  
しむ可き者也

寅八月日

寅八月



## イギリス古本屋管見

松尾尊兌

ロンドンの八ヶ月は過去のものとなつた。だが街並はすぐ眼前に浮ぶ。今でも歩いて行けそうな錯覚におちいることが屢々ある。史家としての義務感に駆られて、スコットランドを巡り、アイルランドに渡り、果は戒厳令下の如きベルファストにまで単独行を試みた私ではあるが、根拠地のロンドンではロンドン塔とかマダム・タソーや人形館等の名所は行きそびれてしまった。新古の本屋めぐりに時間を持られたせいもある。

英書に関する知識などまるでない私には、雑本あさりを楽しむ能力も余裕もなく、十九世紀イギリスの初学者としての集書に終始した。そういう立場のものにとっては、ロンドンの古本屋はあまり有難くなかった。一部にテキスト参考書中心の本屋があると思えば地方にはレア・ブックス（稀観本）店がある。前者は案外値が高く後者は門外漢を寄せつけぬ専門店である。私がロンドンで楽しみとしたのは月に一度「アイヴァンホウ」、「インペリアル」のラッセル・スクエアおよび大英博物館を間には

ロンドンの八ヶ月は過去のものとなつた。だが街並はすぐ眼前に浮ぶ。今でも歩いて行けそうな錯覚におちいることが屢々ある。

さむ両ホテルで同日に開かれる即売会と、土曜日毎にピカデリー通りはロイヤル・アカデミー脇に並ぶ小さな露店市であった。これらにはロンドンの町外れ、或はイングランド南部の各小都市に散在する古本屋が出品するので、その所在を確かめ、又目録を入手するのも便であった。

その場の空気は日本のデパートの即売会とかなり似ており、一但し書架に並べてあるので足下の部分はかなり見にくく、手ぶらで会場に出ることはまずなかつた。ためらっている間に、油揚げをさわれた口惜しさを味わされたのも、日本同様である。こゝで気が付かされたのは、日本関係の本が頗る高価なことで、何でもない古い案内書の類でも五ポンド（七〇〇円）以上は確実にした。日本同業者諸氏の国際的進出の余波であらうか。

即売会以上の楽しみは、ロンドン以外の古本屋あさりにある。オックスフォード・ケンブリッジはさすがに学都だけあって、新本屋はロンドン大学周辺よりも格段に充実し、合せて十軒位ある古本屋

多かった。殊にオックスフォード駅前本屋には、あるカレッジの払ひ下げ本がずらりと並んでおり、而もロンドンに比べれば一・三割は安かった。又所用でロンドン周辺の小都市を歩いていると、意外と古本屋が見付かる。エジンバラとかダブリンのような古都には、必ず由緒ありげな古本屋があることは勿論である。思ひがけぬ土産を持帰ることもあつた。

おそらく私のイギリスに於る古本屋あさりのハイライトは、ヘイ・オン・ワイ（Hay on wye）訪問であろう。ウェールズに属する此奇妙な古本の町に付ての情報は、横山俊夫君（京大人文研）からオックスフォードの日本人留学生仲間に伝えられ、その一人中村研一君（北大法学院）が私をきそつてくれたのである。六月のある朝、動き始めた汽車に飛び乗つて、オックスフォード駅に着いたのが九時。

岩政敏さん（千葉大）と共に中國へは、古本屋はあまり有難くなかった。一部にテキスト参考書中心の本屋があると思えば地方にはレア・ブックス（稀観本）店がある。前者は案外値が高く後者は門外漢を寄せつけぬ専門店である。私がロンドンで楽しみとしたのは月に一度「アイヴァンホウ」、「インペリアル」のラッセル・スクエアおよび大英博物館を間には

かつてない。而も値段の安いことを守ってきた私も、二ポンドといふ値につられて、アーネスト・サトウの著名な「日本に於る一外交官の回想」を買つてしまつた。最

も嬉しかつたのは、両大戦間マンチエスター・ガーディアンに健筆を振った急進自由主義ジャーナリストにして歴史家たるハモンド・オーピーのその夫人の共著になる本を、

一挙に四冊入手し得たことで、いづれも一ポンド内外（市価の六分の一以下）といふ信じられぬ値段であった。

イギリスでも日本同様古書目録の配布はかなり盛んである。目録専門業者の数も少くないとの聞いた。日本と違う点は、安い本が殆んど記載されていないことである。へイ・オン・ワイ辺りで仕入れたものに、高値をつけて目録にのせているのではないかと疑われる。

確かに横山君から聞いたと記憶するが、ブース書店の主人先はアメリカという。私もボストンに到着したとたん、こゝでも数軒ある古本屋の一つでイギリスでどうしても入手出来なかつた本を、二冊同時に買ふことが出来た。フロンティアは確かに存在するらしい。而し買集めた本の置場に困ることは

目に見えていた。それに一生のうち読み切れるか。酷寒のボストンでは穴ごもりがふさわしかろう。

これは程の書棚の列を見たことは

## 大阪ミナミに古書街誕生

既にご存知の方も多かろうと思うが、大阪はミナミの大坂球場に古書街が誕生した。その名も「大坂球場なんばん古書街」と何やら異国情趣を感じさせる。三月二十日にオープン、仲々の盛況で、ご同慶の至りである。

大阪にはキタの「阪急古書のまち」とミナミの「なんばん古書街」と二つの古本屋街が出来た訳で、口さがない連中は、「南北戦争」などはやしたてている。お互い意識し合つて質的に向上するのだから、お客様にはうれしい戦争となるだろう。

店内はデパートの即売展風で、大きなワンフロアに各店が棚によつて仕切られており、お客様には買やすい雰囲気である。出店は全部で十四店、新興勢力とも云えるお店が多く、ウブい喧出しものもありそうだ。ともあれ心からお祝いを申上げ、ご盛業をお祈りする。

出店は、平田書店・日本橋ブックセンター・望月書店・イサオ書店・第一書店・福永書店・丸富書店・アベノ前田書店・伊藤書店・綿野書店・天海堂書店・下山書店・龍久書房・加藤書店の十四店。

地下鉄御堂筋線・南海電車共に「なんば」で下車して、大阪球場を目指されれば便利。

## 愛書家の眼

## 収蔵古書籍目録は嘆く

函館 後藤秀彦

私は、大の本好きであるから、どんな本でも結構である。とりわけ古書籍に興味を持つので、その収集を続いているのである。

収集歴の長い割りに成果のほどはさっぱりで、その量は微々たるものであり、質に於てもこれはと

いう言葉の持たないのであるが、夜窓鬼談などはどうであ

るうかと思っているのである。

## 古本屋の眼

某書店を例にとっての厳しい評価したい旨連絡 ③現在在欲しくない

叱責のお手紙拝見いたしました。

お客様のご依頼に対する「返事」

の仕方という点で大いに考えさせられました。と同時に、私共業界の慣例とお客様の判断との間に、一寸した食違いがあることに気付かされましたので、その点について若干述べてみたいと思います。

お客様から評価依頼があった場合、通常のような主旨を含んだ返事を差上げます。

①買取り値段を明示する ②目録では判断しにくい現品の送付方をお願いあるいは出向いて直接評

面で依頼されたかは存じませんが、というご希望に対して、時代が若いので(店の主要商品がないので)

聚鳥画譜の一例に過ぎないのであります。

二、三年前保存の良否なども入れた、収蔵古書籍目録を作った機会に藏書の時価を知つて置くこと

も無駄はあるまいという考へか

ら目録の一部を京都の某堂へ送つてその評価をお願いしたところ、

大部分は享保から明治に至る間の和本である。いづれも余程前に入手したものであるから、時価などはさっぱり分らない、もつとも

本誌や、古書通信、古書籍即売会月報、古書春秋(有文堂)などを見てるので、これらに広告が載れば分るわけであるが、藏書と同じものが広告に出ることは実に稀であるが、何家寄人談などであって今までに、俳家寄人談と

見ているので、これらに広告が載れば分るわけであるが、藏書と同じものが広告に出ることは実に稀であるが、何家寄人談などであって今までに、俳家寄人談と

見ているので、これらに広告が載れば分るわけであるが、藏書と同じものが広告に出ることは実に稀であるが、何家寄人談などであって今までに、俳家寄人談と

見ているので、これらに広告が載れば分るわけであるが、藏書と同じものが広告に出することは実に稀であるが、何家寄人談などであって今までに、俳家寄人談と

ある。

(臨川書店 久保田)

思わぬ出費!

その様な時、御利用下さい。

・出町店・京都市上京区河原町今出川上る

☎ 231-7711番

・衣笠店・北区西大路通り平野神社北隣

☎ 462-3371番

**Z ENSHOD**  
本専門の質屋  
**善書堂**

# 古書研究だより

『善書堂』衣笠支店

開設

京都古書研究会加盟店

善書堂

書店の衣笠支店が、立命館大学、仏

教大学、花園大学の三角地点、西

大路通り平野神社北隣に四月一日

よりオープンしました。

その名「ブーフ善書堂」横幅二メ

ートルのショーケースには、全集

叢書類、美術書、限定本、趣味本

が、又、店内は明るくゆったりと

あらゆる分野の古書が陳列され、

ほこりっぽく雰囲……という古本

屋のイメージはない。

出町本店で扱っている質部門、(本

を担保にお金を貸してくれる)は

衣笠店でも便宜をはかつてくれる

そうだ。

ともかく京都古書研究会創設二年

あまりにして支店増設する会員が

出た事は結構な事、他の会員によ

りよい刺激を与え、愛書家の皆さ

んには楽しみを与えてくれるもの

であり善書堂さんの今後の活躍を

期待したいと思います。

てあります。

当書房では学生などの若いお客様

が非常に多いので、その方面向

きの本を主に扱っておりますが、

近鉄即売会などにはまた店とは違

った趣味本や壇出物などを、たく

さん出品しております。これから

の課題は、店と即売会などとの本

の格差ができる限りなくし、どん

なお客様にも満足いくような古書

店をめざしたいと思っております。

前年までは店の手伝いとしてや

つきましたが、今年ようやく古

書業者としてやっていく決心がつ

きました。そこでもう古書店経営

等の勉強の手始めとして、入会さ

せていただきました。まだ経験不

足のため右往左往の毎日ですが、

一人前になれる日を夢見て努力し



## 会員紹介

萩書房

上京区烏丸通上御霧前下る

(電)四三一・三七七二

取扱書目・古書籍一般

営業時間・午前10時~午後9時

次井 賢

トールのショーケースには、全集

叢書類、美術書、限定本、趣味本

が、又、店内は明るくゆったりと

あらゆる分野の古書が陳列され、

ほこりっぽく雰囲……という古本

屋のイメージはない。

出町本店で扱っている質部門、(本

を担保にお金を貸してくれる)は

衣笠店でも便宜をはかつてくれる

そうだ。

ともかく京都古書研究会創設二年

あまりにして支店増設する会員が

出た事は結構な事、他の会員によ

りよい刺激を与え、愛書家の皆さ

んには楽しみを与えてくれるもの

であり善書堂さんの今後の活躍を

期待したいと思います。

てあります。

当書房では学生などの若いお客様

が非常に多いので、その方面向

きの本を主に扱っておりますが、

近鉄即売会などにはまた店とは違

った趣味本や壇出物などを、たく

さん出品しております。これから

の課題は、店と即売会などとの本

の格差ができる限りなくし、どん

なお客様にも満足いくような古書

店をめざしたいと思っております。

前年までは店の手伝いとしてや

つきましたが、今年ようやく古

書業者としてやっていく決心がつ

きました。そこでもう古書店経営

等の勉強の手始めとして、入会さ

せていただきました。まだ経験不

足のため右往左往の毎日ですが、

一人前になれる日を夢見て努力し

てあります。

当書房では学生などの若いお客様

が非常に多いので、その方面向

きの本を主に扱っておりますが、

近鉄即売会などにはまた店とは違

った趣味本や壇出物などを、たく

さん出品しております。これから

の課題は、店と即売会などとの本

の格差ができる限りなくし、どん

なお客様にも満足いくような古書

店をめざしたいと思っております。

前年までは店の手伝いとしてや

つきましたが、今年ようやく古

書業者としてやっていく決心がつ

きました。そこでもう古書店経営

等の勉強の手始めとして、入会さ

せていただきました。まだ経験不

足のため右往左往の毎日ですが、

一人前になれる日を夢見て努力し

## いんふおめーしょん

あらゆる分野の古書が陳列され、

ほこりっぽく雰囲……という古本

屋のイメージはない。

出町本店で扱っている質部門、(本

を担保にお金を貸してくれる)は

衣笠店でも便宜をはかつてくれる

そうだ。

ともかく京都古書研究会創設二年

あまりにして支店増設する会員が

出た事は結構な事、他の会員によ

りよい刺激を与え、愛書家の皆さ

んには楽しみを与えてくれるもの

であり善書堂さんの今後の活躍を

期待したいと思います。

元を異にする広さと深さを持つからと云えよう。これらの資料を駆使した本書は平安・鎌倉・室町・

安土桃山・江戸・明治と編年的に記述され、又各論には解剖・児科・

痘科・産科・鍼灸・本草・宫廷医

家・町医師・看護の分野に於いて

より詳細に論述されている。又こ

れとは別に「資料篇」として、小

石・伊良子・山脇・賀川・海上・

小森・百々・水原・広瀬の各門人

録を中心とした原資料が五月末に

刊行され、最終的には全三巻、二

〇〇〇頁の大巻になると云う。今

日までこれに比類する刊行はなく、

京都の医学史はもちろんのこと、

日本医学史、更には日本史研究の

必須資料と云えよう。

又この刊行記念として、思文閣

美術館に於いて「京都の医文化

史展」(主催京都府医師会・思文閣

出版)が下記の日程で行われてお

ります。本に収録された資料一覧

『京都の医学史』刊行記念  
○日時 四月六日(日)~四月二十七日(日)  
○場所 京都市左京区田中閑田町二一七  
(百方辺交差点西五百〇m南側)

TEL(七五一)一七七七

○記念講演於思文閣美術館大講堂

四月十三日(日)午後一時半

吉田光邦・宗田一各先生

山田重正・竹沢徳敬各先生

即売会

近鉄百貨店第45回

五月二日(木)~五月七日(火)

思文閣美術館

TEL(七五一)一七七七

シンボジュウム『京都医史の特色』

四月十九日(土)午後二時半

宗田一・杉丘義一

吉田光邦・宗田一各先生

即集後記

○輪番制の編集委員も今回で二巡。

次回より一段と工夫ある誌面をな

る予定。乞うご期待!

○本誌も追々需要が増えて、一号

は完全に品切れ。二号残部極僅少

となりました。

○連載の「古本よもやま話」(若林

正治氏)は、氏の健康状態が勝れ

ず休載させていただきました。

○皆様より沢山のご寄稿をいた

さげ厚く御礼申上げます。今後共、

ご意見・ご感想・その他書籍と古

本屋に関しての随筆等お寄せ下さ

いますようお願い申上げます。

## 御注文は各書店へ

**〒602 京都市上京区河原町今出川上ル**

本専門の質屋・買入 株式会社 善書堂  
英語・英米文学研究書専門

電話 (〇七五) 一三二一七七一

**研究社 英米文学評伝叢書 一〇三冊揃 ￥二六〇,〇〇〇  
分売も在庫有り 御問い合わせ下さい。**

**二 衣笠店 開設のお知らせ**

四月一日より西大路通り平野神社北隣に、  
BUCH 善書堂をオープンしました。

本店(出町店)共々、皆様のご来店を、  
お待ちいたしております。

**衣笠店 〒603 京都市北区平野宮北町十四  
(西大路通り平野神社北隣)  
電話 (〇七五) 四六二一三三七一**

**藤原北御所書房**  
電話 (〇七五) 一四一一五九八  
振替 京都 三二〇八九

1 古本年鑑	33	1 古典刊	昭昭	14	八,〇〇〇
2 信託関係文献目録	37	住友信託銀行刊	昭昭	35	二,〇〇〇
3 近代日本社会事業史文献目録	其編纂委員会	昭昭	46	二,〇〇〇	
4 既刊郡誌目録	孔版	住吉人俗研究会	昭昭	9	二,〇〇〇
5 地方史誌目録	昭38-3現在	大阪府立図書館	昭昭	39	二,〇〇〇
6 国文学書目集録	垣内松三・尾利昌	昭昭	6	四,〇〇〇	
7 新群書類從 第七	書目	明昭	39	五,〇〇〇	
8 万葉集双書索引	三谷栄一編	昭昭	48	三,〇〇〇	
9 万葉集語彙索引	鴻巣盛広	昭昭	60	三,〇〇〇	
10 徒然草分類索引	黒田亮	昭昭	11	二,〇〇〇	
11 校本芭蕉全集 発句篇索引	愛大法學部	昭昭	46	一,〇〇〇	
12 明治製錬会社五年史附索引	紀要拔刷	昭昭	48	一,〇〇〇	
13 商業及経済研究総目録	商業及経済研究	昭昭	6	一,〇〇〇	
14 文化比較の視点	昭60	昭昭	6	一,〇〇〇	
15 右大臣実朝 初版カバ・旧蔵名	昭60	昭昭	16	一,〇〇〇	
16 惜別 初版	昭48	昭昭	16	一,〇〇〇	
17 花燭 初版	昭48	昭昭	16	一,〇〇〇	
18 太宰治隨想集 初版	若草書房刊	昭昭	11	一,〇〇〇	
19 女の沢園 初版	重版カバ	昭昭	11	一,〇〇〇	
20 斜陽 初版	太宰治	昭昭	11	一,〇〇〇	
21 人間失格 初版	太宰治	昭昭	11	一,〇〇〇	
22 太宰治舊名 初版	太宰治	昭昭	11	一,〇〇〇	
23 带美旧蔵名 初版	太宰治	昭昭	11	一,〇〇〇	
24 英雄と祭典 初版	太宰治	昭昭	11	一,〇〇〇	
25 ドストエフスキイ 初版	太宰治	昭昭	11	一,〇〇〇	
26 ドストエフスキイ 初版	太宰治	昭昭	11	一,〇〇〇	
27 ドストエフスキイ 初版	太宰治	昭昭	11	一,〇〇〇	
28 ドストエフスキイ 初版	太宰治	昭昭	11	一,〇〇〇	
29 ドストエフスキイ 初版	太宰治	昭昭	11	一,〇〇〇	
30 トルストイとドストエフスキイ 初版	太宰治	昭昭	11	一,〇〇〇	
31 カラマーザフの世界 初版	太宰治	昭昭	11	一,〇〇〇	
32 足の向く儘 初版	太宰治	昭昭	11	一,〇〇〇	
33 下谷上野 初版	太宰治	昭昭	11	一,〇〇〇	
34 締冊丸の内今昔 初版	太宰治	昭昭	11	一,〇〇〇	
35 三菱地所欄 初版	太宰治	昭昭	11	一,〇〇〇	
36 久保田金遷 初版	太宰治	昭昭	11	一,〇〇〇	
37 昭和二年	太宰治	昭昭	11	一,〇〇〇	
38 賞ちゃん漫画帳 初版	太宰治	昭昭	11	一,〇〇〇	
39 岡久太 初版	太宰治	昭昭	11	一,〇〇〇	
40 B6	太宰治	昭昭	11	一,〇〇〇	

**〒606 京都市左京区一乗寺里ノ前町24-12**

石川古本店  
電話 (〇七五) 七一一五四一九  
振替 京都 三二〇八九

1 小学三年生	昭33年7月号 (お山の三五郎)	表紙有り	四,〇〇〇
2 中学生の友	昭30年10月 (流生王子)	五,〇〇〇	
3 バンパイイヤ	2冊 少年ブックフロク	二〇,〇〇〇	
4 ジュンマンガ	新宝島研究 初版極美	三,〇〇〇	
5 きりひと讃歌	上下2冊 極美	二,〇〇〇	
6 幼年クラブ	昭30年5月号 (コグマのコロスケ)	三,〇〇〇	
7 少年ブック	昭40年5月号 (ビッグX)	三,〇〇〇	
8 少年ブック	昭41年3月号 (フライングベン)	二,〇〇〇	
9 冒險士	昭43年11・12月号 (12月表裏欠) 2冊	二,〇〇〇	
10 ぱくら	昭41年8月号	一,〇〇〇	
11 少年ブック	昭37年8月号	一,〇〇〇	
12 少年ブック	昭36年12月号・39年11月号	一,〇〇〇	
13 少年	昭42年1月号・6月号	一,〇〇〇	
14 少年	昭43年1月号	一,〇〇〇	
15 少年	昭43年1月号	一,〇〇〇	
16 少年	昭43年1月号	一,〇〇〇	
17 おもしろブック	昭29年4・5月号	一,〇〇〇	
18 小三フロク	昭12年2月	一,〇〇〇	
19 理科物語	昭12年2月	一,〇〇〇	
20 絵とき読本	昭11年7月	一,〇〇〇	
21 模範学習圖鑑	昭11年9月	一,〇〇〇	
22 少女の友	大正14年5月号	一,〇〇〇	
23 少女の友	大正15年1・8・10・11月号	一,〇〇〇	
24 少女俱楽部	フロク 水産大画報	一,〇〇〇	
25 マングワビックリ箱	幼稚園フロク 昭8	一,〇〇〇	
26 子ども七ちゃん	小四フロク 昭12年9月	一,〇〇〇	
27 チョビ助珍探偵	セイガク三年フロク	一,〇〇〇	
28 ツバメのオウチ	阪本牙城 4月6月	一,〇〇〇	
29 三年生	昭11年6・10・11月号	一,〇〇〇	
30 賞ちゃん漫画帳	昭8年7・10・11月号	一,〇〇〇	
31 大	昭10年2月号	一,〇〇〇	
32 上野	昭11年2月号	一,〇〇〇	
33 久保田	昭12年2月号	一,〇〇〇	
34 金遷	昭13年2月号	一,〇〇〇	
35 三	昭14年2月号	一,〇〇〇	
36 三田村鯛魚	昭15年2月号	一,〇〇〇	
37 二	昭16年2月号	一,〇〇〇	
38 二	昭17年2月号	一,〇〇〇	
39 二	昭18年2月号	一,〇〇〇	
40 二	昭19年2月号	一,〇〇〇	

T  
606京都市左京区今出川通百万遍東入  
(京都大学前)

## 井上書店

電話(○七五)七八一三三三五二  
振替京都二二四九七

1透視圖法 夏のための大岡信 変型 初版 昭2	1大和古寺大観 岩波書店 美本七冊揃 昭1
2郷愁の詩人興謝蕪村 萩原朔太郎 初版 昭3	2原色日本の美術 小学館 美本外箱付三十冊揃 昭1
3ある落日 井上靖 初版 帯昭34	3日本近代絵画全集 講談社 毎月報付二十四冊揃 昭38
4満月 井上靖 初版 帯昭33	4古琉球紅型 (京都市立美術館) 大部(二期收入) 四冊揃 昭49
5城砦 井上靖 初版 昭39	5草木染型染め 山崎青樹 証定函付昭52
6をんな隨筆 森田たま 箱付初版昭37	6扶法叢書紅型染め 栗山吉三郎 函付昭52
7ぎふん隨筆 森田たま 箱付初版昭39	7現代花むすび ながた(アーチー)著久野朔郎譯 峠入五十枚揃昭49
8ゆき 断崖の上で 森田たま 箱付初版昭31	8東京大空襲災誌 日本空襲災誌記録する会
9一人の生涯 林美美子 カバ一無初版昭15	9文學直路 齊藤茂古 初版カバ付昭20
10悪靈 植名麟三 箱付初版昭45	10偶像再興 和辻哲郎 函付昭15
11断崖の上で 植名麟三 箱付初版昭48	11愛と認識との出発 倉田百三
12異と毒 植名麟三 箱付初版昭45	12土に叫ぶ 松田甚次郎
13お嬢さん 三島由紀夫 初版昭35	13三十年代 長冢節
14紋章 横光利一 初版昭45	14ジブムのめぐらし
15谷崎潤一郎の文学 伊藤整 初版昭45	15ジブムのめぐらし
16應仁四話 唐木順三 初版昭41	16魔の山 平野直
17秋風秋雨人を慙殺す 武田泰淳 初版昭43	17魔の山 平野直
18欣求淨土 藤枝静男 初版昭45	18魔の山 平野直
19春の城 阿川弘之 初版昭45	19魔の山 平野直
20食しき人々の群 宮本百合子 初版昭45	20魔の山 平野直
21追撃期のゲーテ 伊地知進 初版昭45	21魔の山 平野直
22中世哲学思想史研究 岩下壯一 初版昭45	22魔の山 平野直
23信仰の遺産 岩下壯一 初版昭45	23魔の山 平野直
24米国に使して 野村吉二郎 初版昭45	24魔の山 平野直
25水谷長三郎伝 永末英一編 初版昭45	25魔の山 平野直
26浮世繪全集(分冊売) 黄表紙廿五種 初版昭45	26魔の山 平野直
27浮世繪全集(分冊売) 謹本集 初版昭45	27魔の山 平野直
28浮世繪全集(分冊売) 川柳雜俳集 初版昭45	28魔の山 平野直
29浮世繪全集(分冊売) 謹曲三百五十番集 初版昭45	29魔の山 平野直
30浮世繪全集(分冊売) 滑稽本集 初版昭45	30魔の山 平野直
31香蓀歌集(火) 初版昭45	31魔の山 平野直
32歌集草火 初版昭45	32魔の山 平野直
33歌集草火 非売品 初版昭45	33魔の山 平野直

T  
602京都市上京区烏丸通今出川上ル  
(同志社正門前)

## 沢田書店

電話(○七五)四五一一〇五三三  
振替京都一九一四八

1大和古寺大観 岩波書店 美本七冊揃 昭1	1史跡と美術 56号~107号迄52冊揃 スズカケ出版部
2原色日本の美術 小学館 美本外箱付三十冊揃 昭1	2書物から見た明治の文藝 岡野他家夫 東洋堂 昭1
3日本近代絵画全集 講談社 毎月報付二十四冊揃 昭38	3貝殻追放 初版 水上龍太郎 日本評論社 昭8
4古琉球紅型 (京都市立美術館) 大部(二期收入) 四冊揃 昭49	4俳諺の發達 麻生磯次 八木書店 蔵印有 昭18
5草木染型染め 山崎青樹 証定函付昭52	5近世思想史研究 肥後和男 ふたら書房 昭18
6扶法叢書紅型染め 栗山吉三郎 函付昭52	6英語發達史 ウィーリー著久野朔郎譯 東京堂 昭1
7現代花むすび ながた(アーチー)著久野朔郎譯 峠入五十枚揃昭49	7近代英國の文學思想 荒川龍彦 理想社 昭15
8東京大空襲災誌 日本空襲災誌記録する会	8近代の英文學 福原麟太郎 研究社 大15
9文學直路 齊藤茂古 初版カバ付昭20	9ヴィクトリア朝詩歌論 矢野禾積 研究社 昭29
10偶像再興 和辻哲郎 函付昭15	10ハーディ文學の研究 大澤衛 研究社 昭24
11愛と認識との出発 倉田百三	11アメリカ文學史 齊藤勇 研究社 昭16
12土に叫ぶ 松田甚次郎	12沿革考證日本讀書地圖略説 富山房 明34
13三十年代 長冢節	13京都の歴史第10巻年表事典 京都市編 學藝書林 昭51
14ジブムのめぐらし	14京都大学七十年史
15ジブムのめぐらし	15京都府立醫科大學百年史
16魔の山 平野直	16京都府立醫科大學八十年史
17魔の山 平野直	17荒木寅三郎 古武弥四郎 伝記刊行風会
18魔の山 平野直	18和歌山県薬業史
19魔の山 平野直	19山岳大観 各務良幸・麻生武治編著 木星社
20魔の山 平野直	20鐵道の日本 郵政省監修 交通博物館
21魔の山 平野直	21日本の郵便
22魔の山 平野直	22山岳大観 各務良幸・麻生武治編著 木星社
23魔の山 平野直	23如何に生活すべき乎初版 河上肇譯 弘文堂書房
24魔の山 平野直	24佛典に現はれたる療病法佐々木憲徳 合計31冊
25埃及美術史 石山徹郎 中央出版社	25埃及美術史 石山徹郎 中央出版社
26水彩画手引 三宅克己 日本書會会 昭39	26水彩画手引 三宅克己 日本書會会 昭39
27しまよみ 芸艶堂 昭28	27季刊銀花第二・三号 文化服装学院 昭45
28季刊銀花第四・五六号 文化服装学院 昭45	28季刊銀花第八・九・十号 文化服装学院 昭46
29季刊銀花第八・九・十号 文化服装学院 昭46	29季刊銀花第八・九・十号 文化服装学院 昭47
30季刊銀花第八・九・十号 文化服装学院 昭46	30季刊銀花第八・九・十号 文化服装学院 昭47
31季刊銀花第八・九・十号 文化服装学院 昭46	31季刊銀花第八・九・十号 文化服装学院 昭47
32季刊銀花第八・九・十号 文化服装学院 昭46	32季刊銀花第八・九・十号 文化服装学院 昭47
33季刊銀花第八・九・十号 文化服装学院 昭46	33季刊銀花第八・九・十号 文化服装学院 昭47

T  
602京都市上京区烏丸通上御靈前下ル  
(上御靈前町四一二)

## 萩房書店

電話(○七五)四三二一三七二一  
振替京都一三四三六

1史跡と美術 56号~107号迄52冊揃 スズカケ出版部	1史跡と美術 56号~107号迄52冊揃 スズカケ出版部
2書物から見た明治の文藝 岡野他家夫 東洋堂 昭1	2書物から見た明治の文藝 岡野他家夫 東洋堂 昭1
3貝殻追放 初版 水上龍太郎 日本評論社 昭8	3貝殻追放 初版 水上龍太郎 日本評論社 昭8
4俳諺の發達 麻生磯次 八木書店 蔵印有 昭18	4俳諺の發達 麻生磯次 八木書店 蔵印有 昭18
5近世思想史研究 肥後和男 ふたら書房 昭18	5近世思想史研究 肥後和男 ふたら書房 昭18
6英語發達史 ウィーリー著久野朔郎譯 東京堂 昭1	6英語發達史 ウィーリー著久野朔郎譯 東京堂 昭1
7近代英國の文學思想 荒川龍彦 理想社 昭15	7近代英國の文學思想 荒川龍彦 理想社 昭15
8近代の英文學 福原麟太郎 研究社 大15	8近代の英文學 福原麟太郎 研究社 大15
9ヴィクトリア朝詩歌論 矢野禾積 研究社 昭29	9ヴィクトリア朝詩歌論 矢野禾積 研究社 昭29
10ハーディ文學の研究 大澤衛 研究社 昭24	10ハーディ文學の研究 大澤衛 研究社 昭24
11アメリカ文學史 齊藤勇 研究社 昭16	11アメリカ文學史 齊藤勇 研究社 昭16
12沿革考證日本讀書地圖略説 富山房 明34	12沿革考證日本讀書地圖略説 富山房 明34
13京都の歴史第10巻年表事典 京都市編 學藝書林 昭51	13京都の歴史第10巻年表事典 京都市編 學藝書林 昭51
14京都大学七十年史	14京都大学七十年史
15京都府立醫科大學百年史	15京都府立醫科大學百年史
16京都府立醫科大學八十年史	16京都府立醫科大學八十年史
17荒木寅三郎 古武弥四郎 伝記刊行風会	17荒木寅三郎 古武弥四郎 伝記刊行風会
18和歌山県薬業史	18和歌山県薬業史
19山岳大観 各務良幸・麻生武治編著 木星社	19山岳大観 各務良幸・麻生武治編著 木星社
20鐵道の日本 交通博物館	20鐵道の日本 交通博物館
21日本の郵便	21日本の郵便
22山岳大観 各務良幸・麻生武治編著 木星社	22山岳大観 各務良幸・麻生武治編著 木星社
23如何に生活すべき乎初版 河上肇譯 弘文堂書房	23如何に生活すべき乎初版 河上肇譯 弘文堂書房
24佛典に現はれたる療病法佐々木憲徳 合計31冊	24佛典に現はれたる療病法佐々木憲徳 合計31冊
25埃及美術史 石山徹郎 中央出版社	25埃及美術史 石山徹郎 中央出版社
26水彩画手引 三宅克己 日本書會会 昭39	26水彩画手引 三宅克己 日本書會会 昭39
27しまよみ 芸艶堂 昭28	27季刊銀花第二・三号 文化服装学院 昭45
28季刊銀花第四・五六号 文化服装学院 昭45	28季刊銀花第八・九・十号 文化服装学院 昭46
29季刊銀花第八・九・十号 文化服装学院 昭46	29季刊銀花第八・九・十号 文化服装学院 昭47
30季刊銀花第八・九・十号 文化服装学院 昭46	30季刊銀花第八・九・十号 文化服装学院 昭47
31季刊銀花第八・九・十号 文化服装学院 昭46	31季刊銀花第八・九・十号 文化服装学院 昭47
32季刊銀花第八・九・十号 文化服装学院 昭46	32季刊銀花第八・九・十号 文化服装学院 昭47
33季刊銀花第八・九・十号 文化服装学院 昭46	33季刊銀花第八・九・十号 文化服装学院 昭47

## 御注文は各書店へ

〒600 京都市下京区七条通堀川角

## 谷書店

1 净土法事讀	和大二冊揃	江戸中	二、〇〇〇	
2 略論安樂淨土義	善導	江戸末	一、五〇〇	
3 領淨土伝戒論	曇鸞	江戸末	一、五〇〇	
4 楼本菩薩戒經	了晉	江戸末	一、五〇〇	
5 浄土説蒙編	和大	江戸末	一、五〇〇	
6 西要鈔訛註	和大二冊揃	江戸末	一、五〇〇	
7 西要抄要解	江戸末	一、五〇〇	五、〇〇〇	
8 唯稱安心鏡	大我	江戸末	二、〇〇〇	
9 念仏三心要集	辨阿	江戸末	二、〇〇〇	
10 念仏醍醐秘要藏	和大	江戸末	二、〇〇〇	
11 鎌大紹正宗國師伝客(弁阿伝)	附鎮西上人冤枉辨	江戸末	二、〇〇〇	
12 関通和尚行業記	和大三冊揃	江戸末	二、〇〇〇	
13 専念法語	江戸中	二、〇〇〇	五、〇〇〇	
14 一枚起請諭論	和大	江戸末	二、〇〇〇	
15 小部念仏假名法語	江戸末	二、〇〇〇	五、〇〇〇	
16 専修念仏要語	江戸末	二、〇〇〇	五、〇〇〇	
17 正蓮門住持訓	江戸末	二、〇〇〇	五、〇〇〇	
18 八斎戒法隨身記	江戸末	二、〇〇〇	五、〇〇〇	
19 日課念仏投宿編	江戸末	二、〇〇〇	五、〇〇〇	
20 後世の技折	江戸末	二、〇〇〇	五、〇〇〇	
21 四休菴貞極	江戸末	二、〇〇〇	五、〇〇〇	
22 雲櫻	江戸末	二、〇〇〇	五、〇〇〇	
23 決答授手印疑問鈔	江戸末	二、〇〇〇	五、〇〇〇	
24 決答疑問銘心鈔	江戸末	二、〇〇〇	五、〇〇〇	
25 往生記投機鈔	江戸末	二、〇〇〇	五、〇〇〇	
26 授手印伝心鈔	江戸末	二、〇〇〇	五、〇〇〇	
27 領解授手印徹心鈔	江戸末	二、〇〇〇	五、〇〇〇	
28 一枚起請説	江戸末	二、〇〇〇	五、〇〇〇	
29 三法語講説	江戸末	二、〇〇〇	五、〇〇〇	
30 大胡消息講説	江戸末	二、〇〇〇	五、〇〇〇	
31 秋迎如來稱檀瑞像三國伝記	江戸末	二、〇〇〇	五、〇〇〇	
32 大般若經	江戸末	二、〇〇〇	五、〇〇〇	
33 卷百九八	室町中期刊	江戸末	二、〇〇〇	五、〇〇〇
34 折本一帖	江戸末	二、〇〇〇	五、〇〇〇	

〒606 京都市左京区淨土寺西田町八十一ノ四

## 竹岡書店

1 ヤティンバル・コホバ 〔伝説第二のヤマトの発掘〕	小川英雄訳	昭54	五、〇〇〇
2 古今讀岐名勝図絵	梶原藍水編	昭51	五、〇〇〇
3 讀岐史談	讀岐史談会	全三巻 昭53	五、〇〇〇
4 三重県風土史蹟	大森孤舟	昭54	三、五〇〇
5 尾三史話	高木元裕	昭54	四、〇〇〇
6 凤来寺山文献の研究	愛知県立資料刊行会	昭54	六、〇〇〇
7 平賀源内の研究	城福勇	昭51	三、〇〇〇
8 賀茂真淵と菅江真澄	近藤恒次	昭50	七、〇〇〇
9 鎮西御家人の研究	瀬野元郎	昭50	四、〇〇〇
10 幕藩制国家解体過程の研究	北島正之	昭54	四、〇〇〇
11 和州祭禮記	北本好孝	昭54	五、〇〇〇
12 条里制の研究	渡辺久雄	昭54	五、〇〇〇
13 民具研究の軌跡	宮本馨太郎	昭53	五、〇〇〇
14 日本創建史論	大化改新篇 小笠原秀實	昭53	五、〇〇〇
15 宗教の本質に関する哲學的研究	兒玉達童	昭53	五、〇〇〇
16 日本精神と日本仏教	矢吹慶輝	昭53	五、〇〇〇
17 心理学新研究	松井太郎著記念	昭53	五、〇〇〇
18 哲學概論	大島豊記	昭53	五、〇〇〇
19 仏教心理学の研究	佐々木現順	昭53	五、〇〇〇
20 ウルセル東西哲學の比較研究	昭53	五、〇〇〇	五、〇〇〇
21 哲學研究	村田豊秋	昭53	五、〇〇〇
22 哲學研究	帆足理一郎	昭53	五、〇〇〇
23 遠くでかすかに鐘が鳴る	河上肇	昭53	五、〇〇〇
24 横井大東亞戰史	大竹博吉	昭53	五、〇〇〇
25 ロシア革命史	富士書苑	昭53	五、〇〇〇
26 ガンサアフリカの内幕	大竹博吉	昭53	五、〇〇〇
27 ドイツ三月革命の研究	柳澤洋澤	昭53	五、〇〇〇
28 アメリカの世界制覇主義解剖	長谷川安兵衛	昭53	五、〇〇〇
29 ポーランドヴァイマル共和国成立史	浅山於菟訳	昭53	五、〇〇〇
30 足利末男訳	昭53	五、〇〇〇	五、〇〇〇
31 ティエラ・エスコバ著	昭53	五、〇〇〇	五、〇〇〇
32 ゲルマン共同体の基本構造	昭53	五、〇〇〇	五、〇〇〇
33 豊田篤言	林基・山岡亮監修	昭35	九、〇〇〇
34 笠信太郎全集	公安資料調査会	昭42	三、〇〇〇
35 低開発国の教育投資	昭42	三、〇〇〇	三、〇〇〇
36 ベスタロッチ全集	朝日新聞社	昭42	三、〇〇〇
37 小原教育論	小原国芳全集別巻	昭40	二、〇〇〇
38 オケワーン社会変化論	雨宮伊藤共訳	昭39	二、〇〇〇
39 群衆社会学	今井時郎	昭39	二、〇〇〇
40 社会学辞典	新明止道編	昭39	二、〇〇〇
41 同和対策審議会答申	同刊行会	昭39	一少種
42 アメリカの政治機関	武田嘉一	昭39	二、〇〇〇
43 犯獄十八年	地図球一・志賀義雄	昭39	二、〇〇〇
44 勞働組合と社会政策	今井時郎	昭39	二、〇〇〇
45 米国労働運動史	新明止道編	昭39	二、〇〇〇
46 シュマーリンバハ原価計算と価格政策	松井七郎	昭39	二、〇〇〇
47 ドイツ統一共同体論	大橋昭一	昭39	二、〇〇〇
48 現代経済学の諸問題	大阪大学経済学部	昭39	二、〇〇〇
49 林業労働の研究	山岡亮一・山崎武雄編	昭39	二、〇〇〇
50 若越農政経済史研究	杉本壽	昭39	二、〇〇〇
51 現代憲法の基本問題	山岡亮一・山崎武雄編	昭39	二、〇〇〇
52 私法序説	廣濱嘉雄	昭39	二、〇〇〇
53 プロイセン憲法争議研究	前田光夫	昭39	二、〇〇〇
54 憲法摘要	美農部達吉	昭39	二、〇〇〇
55 犯罪論序説	瀧川幸辰	昭39	二、〇〇〇
56 刑法大綱	宮本英脩	昭39	二、〇〇〇
57 性懲り論	澤田順次郎	昭39	二、〇〇〇
58 性慾研究と精神分析学	榎保三郎	昭39	二、〇〇〇
59 性懲り論	浅山於菟訳	昭39	二、〇〇〇
60 賭博と搆謀の研究	尾佐竹猛	昭39	二、〇〇〇
61 土岐政蔵	昭39	二、〇〇〇	二、〇〇〇
62 健人伝全集	改造社	昭39	二、〇〇〇
63 分売	昭39	二、〇〇〇	二、〇〇〇
64 アダム・スミス傳	ダーヴィン傳	昭39	二、〇〇〇
65 ビスマルク傳	マルクス傳	昭39	二、〇〇〇
66 トルストイ傳	福澤諭吉傳	昭39	二、〇〇〇

31 ロシア史の時代区分	林基・山岡亮監修	昭35
32 タクトニッポンヨーロッパ人の眼で見た	（ソビエト史叢書）全2冊	九、〇〇〇
33 豊田篤言	公安資料調査会	昭35
34 笠信太郎全集	朝日新聞社	昭35
35 低開発国の教育投資	昭42	三、〇〇〇
36 ベスタロッチ全集	昭42	三、〇〇〇
37 小原教育論	（ソビエト史叢書）全集別巻	昭42
38 オケワーン社会変化論	雨宮伊藤共訳	昭42
39 群衆社会学	今井時郎	昭42
40 社会学辞典	新明止道編	昭42
41 同和対策審議会答申	同刊行会	昭42
42 アメリカの政治機関	武田嘉一	昭42
43 犯獄十八年	地図球一・志賀義雄	昭42
44 勞働組合と社会政策	今井時郎	昭42
45 米国労働運動史	新明止道編	昭42
46 シュマーリンバハ原価計算と価格政策	松井七郎	昭42
47 ドイツ統一共同体論	大橋昭一	昭42
48 現代経済学の諸問題	大阪大学経済学部	昭42
49 林業労働の研究	山岡亮一・山崎武雄編	昭42
50 若越農政経済史研究	杉本壽	昭42
51 現代憲法の基本問題	山岡亮一・山崎武雄編	昭42
52 私法序説	廣濱嘉雄	昭42
53 プロイセン憲法争議研究	前田光夫	昭42
54 憲法摘要	美農部達吉	昭42
55 犯罪論序説	瀧川幸辰	昭42
56 刑法大綱	宮本英脩	昭42
57 性懲り論	澤田順次郎	昭42
58 性慾研究と精神分析学	榎保三郎	昭42
59 性懲り論	浅山於菟訳	昭42
60 賭博と搆謀の研究	尾佐竹猛	昭42
61 土岐政蔵	長谷川安兵衛	昭42
62 健人伝全集	（ソビエト史叢書）全2冊	二、〇〇〇
63 分売	改造社	二、〇〇〇
64 アダム・スミス傳	ダーヴィン傳	二、〇〇〇
65 ビスマルク傳	マルクス傳	二、〇〇〇
66 トルストイ傳	福澤諭吉傳	二、〇〇〇



〒604 京都市中京区丸太町通千本西入南側

# 八木書店古書部

1 覚敵水谷筆 福兼二字 橫物一幅	金井紫雲編 小虫入 昭和13年	三五、〇〇〇	
2 芸術資料 大狼	弘化5年	三五、〇〇〇	
3 立華早稽古 卷一 池田東離	明治39年	三五、〇〇〇	
4 繼施頭歌評訣 神谷保朗 初版	明治26年	八、〇〇〇	
5 風俗問状答 竹村耕芝筆併画	大正初年	三五、〇〇〇	
6 大脳流小鼓独鼓 茂木賀光	大正元年	二五、〇〇〇	
7 皇陵巡拝道の某 藤沢南岳	明治29年	二五、〇〇〇	
8 井上正鉄翁御書 写本	明治44年	三五、〇〇〇	
9 海闊先生詠物詩集(巻之四)	明治44年	二五、〇〇〇	
10 家庭雑誌 12号三冊	明治14年	二五、〇〇〇	
11 京都案内(妙心二世) 後藤光村編	明治28年	二五、〇〇〇	
12 丹鑑(国師) 教訓絵入比壳鑑	天保7年	二五、〇〇〇	
13 広益諸家人名録	寛永8年	二五、〇〇〇	
14 科註妙法蓮華經	延宝8年	二五、〇〇〇	
15 篆隸千字文	正徳2年	二五、〇〇〇	
16 玉藻略史 讀岐	明治12年	二五、〇〇〇	
17 井上正鉄翁御書 写本	明治12年	二五、〇〇〇	
18 元服之記 写本2丁	松代飯島与作写	明治5年	二五、〇〇〇
19 和歌名所集覽 卷5	山之部	明治5年	二五、〇〇〇
20 木喰五行上人 仏画集	武場隆三郎	明治14年	二五、〇〇〇
21 今様長歌歌上の美人スコット 塩井雨江訳	奥付欠	明治14年	二五、〇〇〇
22 武藏野探勝 中下2冊	虚子編	明治14年	二五、〇〇〇
23 日本の版画 旭泰著	天保9年	二五、〇〇〇	
24 華語文法研究 吳主忠	大正14年	二五、〇〇〇	
25 宝氏経済学 婦人參政論者宝節德夫人	昭和11年	二五、〇〇〇	
26 絵画抄入18史客稿義少萬石 藤江卓藏口述	明治18年	二五、〇〇〇	
27 英文世界歴史 銅版 東京戸田直秀出版	明治18年	二五、〇〇〇	
28 捨遺都名所図会 (日本図会全集)	明治18年	二五、〇〇〇	
29 震災遭難記 (東京) 橋本喜作	明治19年	二五、〇〇〇	
30 藤田東湖伝 菊地謙二郎	明治20年	二五、〇〇〇	
31 絵画抄入18史客稿義少萬石 藤江卓藏口述	明治20年	二五、〇〇〇	
32 古今諸家人物志 佐々木弘綱	明治23年	二五、〇〇〇	
33 詠歌白在 青木宇千鶴	明治23年	二五、〇〇〇	
34 小本 明和6年	二五、〇〇〇		
35 那然氏小学教育論 天保義民録	滋賀野洲郡河原吉三	明治15年	二五、〇〇〇
36 日本書表現文典	岡本禹二編	明治18年	二五、〇〇〇
37 滕栗毛 東海木曾奥羽道中	井上仁吉	明治19年	二五、〇〇〇
38 機械工学便覧	井上仁吉	明治19年	二五、〇〇〇
39 新曲古曲 琴曲全集	小泉信吉訳	明治19年	二五、〇〇〇
40 日本国治革史 兼松亀吉郎	傷有	明治23年	二五、〇〇〇
41 京都名勝圖書	市役所編	明治38年	二五、〇〇〇
42 満州旧蹟志 上編	満鉄調査課	明治42年	三五、〇〇〇
43 校註国文叢書 (新井喜昇日露戰爭中納言方丈記)	一冊	明治42年	三五、〇〇〇
44 おひな様之図 内筆彩色	阿部次郎	明治44年	三五、〇〇〇
45 人格主義 国民主義	藤井健治郎	昭和15年	二五、〇〇〇
46 哲學の歴史ウイリアム・ターナー米ボストン	日加田誠	昭和15年	二五、〇〇〇
47 調理第一第二第三書秋義	牧野虎次編	昭和18年	二五、〇〇〇
48 詩経 約翰第一第二第三書秋義	初版	昭和18年	二五、〇〇〇
49 家畜病理解剖学 可兒岩吉	初版	昭和18年	二五、〇〇〇
50 國字二遷史 井上賴園檢閲	初版	昭和20年	二五、〇〇〇
51 詩集 風の中の歌 700限定	北山冬一郎	昭和20年	二五、〇〇〇
52 明治冬物縞柄紬糸着物 一着	(荒川良蔵資料)	昭和20年	二五、〇〇〇
53 約翰第一第二第三書秋義	中川和堂筆	昭和20年	二五、〇〇〇
54 横濱市立美術館	江月夜之図	昭和20年	二五、〇〇〇
55 京都取引所 50年史	一冊	昭和20年	二五、〇〇〇
56 裁縫精義 帯及袴篇	奈良女高師米沢光	昭和21年	二五、〇〇〇
57 ニチエと民族社会主義ヘルト著 南松尾共訳	天保9年	二五、〇〇〇	
58 曾文正公詩文集4冊一冊 摘葉山房石印	大正14年	二五、〇〇〇	
59 荻子集解 八冊一冊 摘葉山房石印	昭和15年	二五、〇〇〇	
60 原本影印毛詩伝箋8冊一冊 摘葉山房刊	昭和15年	二五、〇〇〇	
61 増輯書目答問 上海朝記書莊印行2冊	昭和15年	二五、〇〇〇	
62 紫前賢故実1冊 摘葉山房武丸著	明治36年	二五、〇〇〇	
63 宋元明評註読本 下2冊 興王文濡	明治36年	二五、〇〇〇	
64 禮記集説1冊一冊 摘葉山房	明治36年	二五、〇〇〇	
65 京都後漢書青華錄 6冊一冊	明治36年	二五、〇〇〇	
66 古事類苑 文学部第3一冊 背陽	明治36年	二五、〇〇〇	
67 東福寺毘沙門天王 石崎達二	明治36年	二五、〇〇〇	
68 立志之鏡 松村介石	明治36年	二五、〇〇〇	
69 京都同窓会誌43号10冊 よしこの京の花二篇(都々逸集)	昭和4年	二五、〇〇〇	
70 幸清十郎小鼓 写本8丁	江戸末	二五、〇〇〇	
71 鉄斎先生筆 横本	江戸末	二五、〇〇〇	
72 柏天土人筆 六字名号	江戸末	二五、〇〇〇	
73 稲穂建軍革事対書江戸大地震6字名号口伝外 ことば乃守真法一名草字梯級速術 初版皆傷	安政3年	二五、〇〇〇	
74 行政歌曲樂譜 松庄須磨子の唄附 荒城の月2頁	大正11年	二五、〇〇〇	
75 西内利夫筆 猿之図	安政3年	二五、〇〇〇	
76 竹中淡斎筆 一行	明治15年	二五、〇〇〇	
77 龍椿筆 古梅牛之図 曹洞宗師家田翁贊	明治15年	二五、〇〇〇	
78 阿彌陀如来像 一幅 本寂上人裏利 表具はボロ	明治15年	二五、〇〇〇	
79 明治15年珍宝印譜神武大祭紀元節四方押印等	明治15年	二五、〇〇〇	
80 櫻池道人筆 書下し一紙	明治15年	二五、〇〇〇	
81 本綿盛半てん一着 労働者用ギヤラケ 農民資料	明治15年	二五、〇〇〇	
82 学軒青木成教筆 一行一幅 大虫入	明治15年	二五、〇〇〇	
83 黑谷金光明寺神聲電子人筆 一紙	明治15年	二五、〇〇〇	
84 華風筆 富嶽之図 墨絵 折傷有 一幅	明治15年	二五、〇〇〇	
85 天台宗寺宇寺淨院筆 一切衆生は云々 一紙虫入	明治15年	二五、〇〇〇	
86 雄誉上人筆 6字名号 一紙	明治15年	二五、〇〇〇	
87 清正公神像 一幅	明治15年	二五、〇〇〇	
88 紀州若山報恩寺13日延命施普賢大菩薩墨摺 一幅	明治15年	二五、〇〇〇	
89 豊前企救都小倉欣斎寺子安觀世音墨摺 しみ入 一紙	明治15年	二五、〇〇〇	
90 弘法大師尊像 一幅 肉筆彩色	明治15年	二五、〇〇〇	
91 学洞上人筆 6字名号 一紙 しみ入	明治15年	二五、〇〇〇	
92 黒谷金光明寺神聲電子人筆 6字名号 しみ入 一紙	明治15年	二五、〇〇〇	
93 東本願寺達如上人裏判阿弥陀如來像 一幅	明治15年	二五、〇〇〇	
94 達如上人筆 6字名号 めくり一紙	明治15年	二五、〇〇〇	
95 古版三尊仏 小品 一幅	明治15年	二五、〇〇〇	
96 格位尊卑之事良忍御房秘書 サヌキ俊雪筆 一幅	天正17年	二五、〇〇〇	
97 西国33所觀音像 墓摺 一幅	江戸末	二五、〇〇〇	
98 天院淨土比丘智海上人筆 6字名号 一紙しみ入	天保13年	二五、〇〇〇	
99 相州中依智本居屋根桶本星下雪梅古木之道場 墓摺一紙	明治15年	二五、〇〇〇	
100 日蓮聖人御筆 南無妙法蓮華經拓本一紙	明治15年	二五、〇〇〇	
101 天狹證禪師筆 積善之家々 一幅 (白樺禪師高弟)	明治31年	二五、〇〇〇	
102 宮輿與地誌略 内田正雄10冊	明治31年	二五、〇〇〇	
103 中院透茂公筆 源氏歌巻 通射公奥書有	明治31年	二五、〇〇〇	
104 富山市全圖 江尻兼次郎刊	明治31年	二五、〇〇〇	
105 武部太夫為恭筆 茶釜之図面賛 一幅	明治31年	二五、〇〇〇	
106 八句秘訣 蓬花三昧経 長祐入道 写本 天文2年	明治31年	二五、〇〇〇	
107 吉沢義則先生筆 南座の和歌(喜春) 一幅	明治31年	二五、〇〇〇	
108 三井鉄道大雄筆豆代米代兄様人足荷削出様 文久3年	明治31年	二五、〇〇〇	
109 京都勸業雑誌 一号 京都府発行	明治31年	二五、〇〇〇	
110 柏天土人筆 六字名号 一幅	明治31年	二五、〇〇〇	

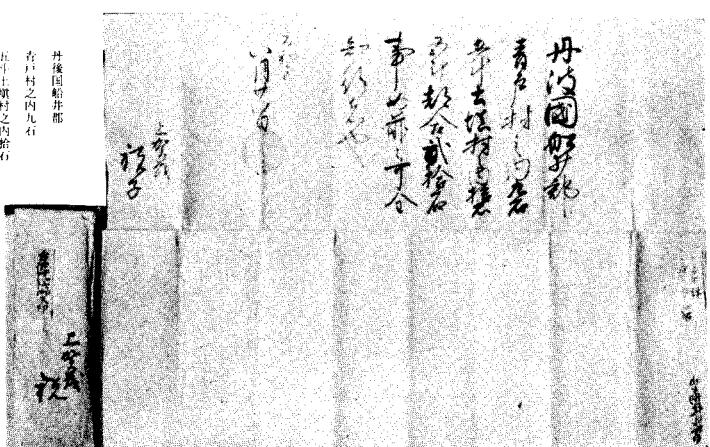


## 文藻堂

〒604 京都市中京区新烏丸通竹屋町上ル 振替 京都22807  
電話 (075-231-1914)

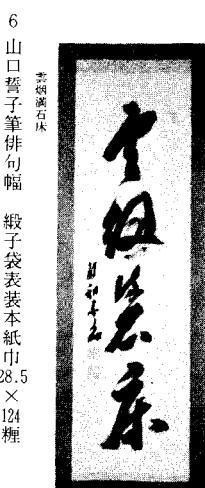
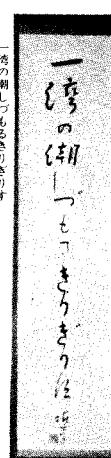
1 德川秀忠朱印状

一紙 一西、000



八月廿八日朱印子

元和二

事前々叶全  
知行者也祝=ホウリ(神官)  
上賀茂神社神官  
休出寺守院2 天眼齋湖筆達磨画質 絹三段表装りんボ桐箱入  
本紙巾23×65釐 一幅 金五、0005 法隆寺貢主佐伯定胤筆一行書 絹袋表装絹本巾36×126  
桐箱入美一幅 三西、0003 妙心寺管長虎閑宗補筆寒山拾得画質双幅  
絹袋表装杉箱入 双幅共左上部シミ跡有  
一幅本紙巾33×123双幅 二六〇、0006 山口誓子筆俳句幅 紺子袋表装本紙巾28.5×124釐  
昭和廿六年七月  
自題共箱入(杉)極美一幅 二三、000

7 若山牧水筆短冊 紺地金沙子 板美一枚 二三、000

わが心の竹のはのいは  
竹の葉に光つぶ木ね青す果

一滴のじづもるきりきりす  
降りぬれば春は来はけられど

8 結城哀草果筆短冊 打鑿金沙子 極美一枚 二三、000

草ふかくこむる葉をにまつたら  
子の葉に光つぶ木ね青す果

9 前田普羅筆短冊 打鑿金沙子 極美一枚 二三、000

白風に雪のふり居るかな  
白山に雪のふり居るかな

10 長田幹彦筆短冊 朱金雲地 下端僅傷一枚 三三、000





〒606 京都市左京区北白川久保田町64の5

社会科学系学術書と  
絶版文庫・専門店

外山書店

1 日本国文化講座	1号～96号内欠7冊	日本文化協会昭12～18	六、〇〇〇	1 1号～13号	日本文化史	大正8～14	三、〇〇〇	34 日本常民生活資料叢書第一卷 民具篇	三二書房	昭39	33 日本常民生活資料叢書第一卷 民具篇	三二書房	昭33	
2 皇國精神講座	11冊	小林一郎講 昭16～18	二、〇〇〇	2 小島好治	日本篤胤大	昭18～22	二、〇〇〇	35 平田篤胤の国学	沖野岩三郎	昭17～21	五、〇〇〇	33 日本常民生活資料叢書第一卷 民具篇	三二書房	昭33
3 恩賜京都博物館講演集	1号～13号	小林一郎講 大14～昭11	三、〇〇〇	3 貴茂真淵の精神	平田篤胤大	昭18～22	二、〇〇〇	34 益軒養生訓	佐藤堅司	昭17～21	四、〇〇〇	33 日本常民生活資料叢書第一卷 民具篇	三二書房	昭33
4 講座日本文化史	全8冊	日本史研究会編 昭38	九、〇〇〇	4 田中義能	平田篤胤之哲学(修正版)	昭17～21	二、〇〇〇	35 関西大石浜先生古稀記念	島恭彦	昭17～21	五、〇〇〇	33 日本常民生活資料叢書第一卷 民具篇	三二書房	昭33
5 歴史学論集		遠山・永原編 昭36	五、〇〇〇	5 小島義治	東洋社会と西欧思想	昭17～21	二、〇〇〇	36 東洋学論叢	島恭彦	昭17～21	五、〇〇〇	33 日本常民生活資料叢書第一卷 民具篇	三二書房	昭33
6 日本の中世史		遠藤・渡辺昭14	一八〇〇	6 冨田篤胤	世界兵学史話—西洋篇—	昭17～21	二、〇〇〇	37 ダンエル・原始民族の文化と宗教	大場千秋訳	昭17～21	五、〇〇〇	33 日本常民生活資料叢書第一卷 民具篇	三二書房	昭33
7 羽田博士史学論文集(下巻)『言語宗教編』	羽田 享	昭33	7 石田梅嚴	世界兵学史話—東洋篇—	昭17～21	二、〇〇〇	38 ネルー・インドの発見	伊東四郎他訳	昭17～21	五、〇〇〇	33 日本常民生活資料叢書第一卷 民具篇	三二書房	昭33	
8 古代末期の政治過程および政治形態上・下	右母田正昭	昭25	8 石田雲浜	東洋社会と西欧思想	昭17～21	二、〇〇〇	39 佐藤堅司	佐藤堅司	昭17～21	五、〇〇〇	33 日本常民生活資料叢書第一卷 民具篇	三二書房	昭33	
9 日本奴隸史	阿部弘蔵昭3	五、〇〇〇	9 辻森秀英	仏領印度支那研究	昭17～21	二、〇〇〇	40 田島義能	田島義能	昭17～21	五、〇〇〇	33 日本常民生活資料叢書第一卷 民具篇	三二書房	昭33	
10 日本中世史	藤間文生昭24	一、〇〇〇	10 小島好治	関西大石浜先生古稀記念	昭17～21	二、〇〇〇	41 鈴江信一	鈴江信一	昭17～21	五、〇〇〇	33 日本常民生活資料叢書第一卷 民具篇	三二書房	昭33	
11 政治的社會の成立	藤田博治昭19	二、〇〇〇	11 沢谷博治	平田篤胤の國学	昭17～21	二、〇〇〇	42 久志卓真	久志卓真	昭17～21	五、〇〇〇	33 日本常民生活資料叢書第一卷 民具篇	三二書房	昭33	
12 近世における農民層の階級文化	藤田五郎昭24	一、〇〇〇	12 尾佐竹猛昭24	新島先生書簡集	昭17～21	二、〇〇〇	43 石橋大昌	石橋大昌	昭17～21	五、〇〇〇	33 日本常民生活資料叢書第一卷 民具篇	三二書房	昭33	
13 純粹封建制成立における農民闘争	鈴木良一昭25	一、〇〇〇	13 岡崎正孝昭33	無產階級の世界史	昭17～21	二、〇〇〇	44 旗田巍	旗田巍	昭17～21	五、〇〇〇	33 日本常民生活資料叢書第一卷 民具篇	三二書房	昭33	
14 特命全權大使米歐回覧実記(痛本)	阿部弘蔵昭3	五、〇〇〇	14 田中義能	ソビエト科学アカデミー版・世界史	昭17～21	二、〇〇〇	45 池澤貞一郎	池澤貞一郎	昭17～21	五、〇〇〇	33 日本常民生活資料叢書第一卷 民具篇	三二書房	昭33	
15 華士族秩祿処分の研究	深谷博治昭19	一、〇〇〇	15 長谷川萬次郎昭24	古代全6冊	昭17～21	二、〇〇〇	46 逸見重雄	逸見重雄	昭17～21	五、〇〇〇	33 日本常民生活資料叢書第一卷 民具篇	三二書房	昭33	
16 明治維新 上中下の一(3冊)	尾佐竹猛昭24	一、〇〇〇	16 田中正義昭24	世界人種史物語 全2冊	昭17～21	二、〇〇〇	47 池澤貞一郎	池澤貞一郎	昭17～21	五、〇〇〇	33 日本常民生活資料叢書第一卷 民具篇	三二書房	昭33	
17 明治維新における指導と同盟	服部之總昭24	一、〇〇〇	17 矢田俊隆昭24	コマンスキンスキーワールド	昭17～21	二、〇〇〇	48 佐那上代文化史	佐那上代文化史	昭17～21	五、〇〇〇	33 日本常民生活資料叢書第一卷 民具篇	三二書房	昭33	
18 自由民権と絶体主義	信夫清三郎昭24	一、〇〇〇	18 澄川堅太郎昭24	世界人種史物語 全2冊	昭17～21	二、〇〇〇	49 ラムトン・ペルシアの地主と農民	ラムトン・ペルシアの地主と農民	昭17～21	五、〇〇〇	33 日本常民生活資料叢書第一卷 民具篇	三二書房	昭33	
19 士族反乱の研究	後藤靖昭24	一、〇〇〇	19 長谷川萬次郎昭24	世界中世史研究全5冊	昭17～21	二、〇〇〇	50 久志卓真	久志卓真	昭17～21	五、〇〇〇	33 日本常民生活資料叢書第一卷 民具篇	三二書房	昭33	
20 自由民権運動の展開	後藤靖昭41	一、〇〇〇	20 田中正義昭24	ヨーロッパ農業改革とヨンカーニー経営の發展	昭17～21	二、〇〇〇	51 石橋大昌	石橋大昌	昭17～21	五、〇〇〇	33 日本常民生活資料叢書第一卷 民具篇	三二書房	昭33	
21 明治維新運動人物考	田中惣五郎昭16	一、〇〇〇	21 田中正義昭24	倫敦紀フランス(袁人丈研著)	昭17～21	二、〇〇〇	52 後藤朝太郎昭24	支那の社会相	昭17～21	五、〇〇〇	33 日本常民生活資料叢書第一卷 民具篇	三二書房	昭33	
22 大政変前後	京口元吉昭24	一、〇〇〇	22 田中正義昭24	封建的土地所有の成立過程	昭17～21	二、〇〇〇	53 池澤貞一郎昭24	支那上古史	昭17～21	五、〇〇〇	33 日本常民生活資料叢書第一卷 民具篇	三二書房	昭33	
23 昭和三・四・六年史	各五、〇〇〇	23 田中正義昭24	イタリア中部山村の調査報告(向右)	昭17～21	二、〇〇〇	54 池澤貞一郎昭24	支那韻文史	昭17～21	五、〇〇〇	33 日本常民生活資料叢書第一卷 民具篇	三二書房	昭33		
24 昭和思想史	各五、〇〇〇	24 田中正義昭24	中世國家の構造	昭17～21	二、〇〇〇	55 池澤貞一郎昭24	支那科学・経済史	昭17～21	五、〇〇〇	33 日本常民生活資料叢書第一卷 民具篇	三二書房	昭33		
25 歴史と体験—近代日本精神史観書上・増補	各五、〇〇〇	25 田中正義昭24	ローマ・欧洲諸国民発達史 上下	昭17～21	二、〇〇〇	56 羅馬大土地所有制	支那科学・経済史	昭17～21	五、〇〇〇	33 日本常民生活資料叢書第一卷 民具篇	三二書房	昭33		
26 琴似屯田百年史	各五、〇〇〇	26 田中正義昭24	イタリア中部山村の調査報告(向左)	昭17～21	二、〇〇〇	57 プロイセンの農業改革とヨンカーニー経営の發展	支那科学・経済史	昭17～21	五、〇〇〇	33 日本常民生活資料叢書第一卷 民具篇	三二書房	昭33		
27 屯田兵—伝承と展開	各五、〇〇〇	27 田中正義昭24	ヨーロッパ農業改革とヨンカーニー経営の發展	昭17～21	二、〇〇〇	58 ヨーロッパ農業改革とヨンカーニー経営の發展	支那科学・経済史	昭17～21	五、〇〇〇	33 日本常民生活資料叢書第一卷 民具篇	三二書房	昭33		
28 明治の名古屋人	各五、〇〇〇	28 田中正義昭24	ヨーロッパ農業改革とヨンカーニー経営の發展	昭17～21	二、〇〇〇	59 ヨーロッパ農業改革とヨンカーニー経営の發展	支那科学・経済史	昭17～21	五、〇〇〇	33 日本常民生活資料叢書第一卷 民具篇	三二書房	昭33		
29 尾鷲市史 上下	各五、〇〇〇	29 田中正義昭24	ヨーロッパ農業改革とヨンカーニー経営の發展	昭17～21	二、〇〇〇	60 ヨーロッパ農業改革とヨンカーニー経営の發展	支那科学・経済史	昭17～21	五、〇〇〇	33 日本常民生活資料叢書第一卷 民具篇	三二書房	昭33		
30 福井県史 全4冊(大9～11年復刻)	各五、〇〇〇	30 田中正義昭24	ヨーロッパ農業改革とヨンカーニー経営の發展	昭17～21	二、〇〇〇	61 ヨーロッパ農業改革とヨンカーニー経営の發展	支那科学・経済史	昭17～21	五、〇〇〇	33 日本常民生活資料叢書第一卷 民具篇	三二書房	昭33		
31 奈良県報	二二七二号(二三七七号内欠19冊)	31 田中正義昭24	ヨーロッパ農業改革とヨンカーニー経営の發展	昭17～21	二、〇〇〇	62 ヨーロッパ農業改革とヨンカーニー経営の發展	支那科学・経済史	昭17～21	五、〇〇〇	33 日本常民生活資料叢書第一卷 民具篇	三二書房	昭33		
九州考古学研究・歴史時代篇 小田富士雄	二二七二号(二三七七号内欠19冊)	32 田中正義昭24	ヨーロッパ農業改革とヨンカーニー経営の發展	昭17～21	二、〇〇〇	63 ヨーロッパ農業改革とヨンカーニー経営の發展	支那科学・経済史	昭17～21	五、〇〇〇	33 日本常民生活資料叢書第一卷 民具篇	三二書房	昭33		
前島信次	二二七二号(二三七七号内欠19冊)	33 田中正義昭24	ヨーロッパ農業改革とヨンカーニー経営の發展	昭17～21	二、〇〇〇	64 ヨーロッパ農業改革とヨンカーニー経営の發展	支那科学・経済史	昭17～21	五、〇〇〇	33 日本常民生活資料叢書第一卷 民具篇	三二書房	昭33		
お知らせ!	二二七二号(二三七七号内欠19冊)	34 田中正義昭24	ヨーロッパ農業改革とヨンカーニー経営の發展	昭17～21	二、〇〇〇	65 ヨーロッパ農業改革とヨンカーニー経営の發展	支那科学・経済史	昭17～21	五、〇〇〇	33 日本常民生活資料叢書第一卷 民具篇	三二書房	昭33		
アラビア民族史	二二七二号(二三七七号内欠19冊)	35 田中正義昭24	ヨーロッパ農業改革とヨンカーニー経営の發展	昭17～21	二、〇〇〇	66 ヨーロッパ農業改革とヨンカーニー経営の發展	支那科学・経済史	昭17～21	五、〇〇〇	33 日本常民生活資料叢書第一卷 民具篇	三二書房	昭33		
アラビア民族史と近代社会の成長	二二七二号(二三七七号内欠19冊)	36 田中正義昭24	ヨーロッパ農業改革とヨンカーニー経営の發展	昭17～21	二、〇〇〇	67 ヨーロッパ農業改革とヨンカーニー経営の發展	支那科学・経済史	昭17～21	五、〇〇〇	33 日本常民生活資料叢書第一卷 民具篇	三二書房	昭33		
アラビア民族史	二二七二号(二三七七号内欠19冊)	37 田中正義昭24	ヨーロッパ農業改革とヨンカーニー経営の發展	昭17～21	二、〇〇〇	68 ヨーロッパ農業改革とヨンカーニー経営の發展	支那科学・経済史	昭17～21	五、〇〇〇	33 日本常民生活資料叢書第一卷 民具篇	三二書房	昭33		
アラビア民族史	二二七二号(二三七七号内欠19冊)	38 田中正義昭24	ヨーロッパ農業改革とヨンカーニー経営の發展	昭17～21	二、〇〇〇	69 ヨーロッパ農業改革とヨンカーニー経営の發展	支那科学・経済史	昭17～21	五、〇〇〇	33 日本常民生活資料叢書第一卷 民具篇	三二書房	昭33		
アラビア民族史	二二七二号(二三七七号内欠19冊)	70 田中正義昭24	ヨーロッパ農業改革とヨンカーニー経営の發展	昭17～21	二、〇〇〇	71 ヨーロッパ農業改革とヨンカーニー経営の發展	支那科学・経済史	昭17～21	五、〇〇〇	33 日本常民生活資料叢書第一卷 民具篇	三二書房	昭33		

〒604

(京都市中京区河原町通三条上ル  
(朝日会館前)

## キ ク オ 書 店

当店は、洋書・歴史・郷土史・民族・民俗・東洋・南洋・山岳探検書に力を入れて売買しております。  
**本号は日本・中国関係の洋書を特集しました。**

電話 (○七五) 一三一七六三四  
振替 京都 一七六四〇

## 極 東

1 (英) 極東の民族と政治 ノーマン 写真多数入  
2 (英) 極東概観 リットル 八五  
3 (英) 中国・日本・満洲急旅 オースティン 八九  
4 (英) 世界の民族 (日本篇はワシントン記述) 全七冊 九三  
5 (英) 東への道―日本・中国・旅行 バクストン 九四  
6 (英) アジアからの光 カツツ (日本記載あり) 九五  
7 (英) 東亜種族の力 (中國と日本・タイとマール) 九六

8 (英) アジアの人々 ポウルス 一九四  
9 (英) 日本・中国少年の旅 ノックス 挿絵多数入  
10 (英) 日本の農業経済調査報告 リープ・ショール 一八〇  
11 (英) 俗日本人の生活描写 (ノーマン著) 日本藏書目録 ロニー 一八三  
12 (英) 知られぬ日本の面影 (初版) ハーン 二冊 一八三  
13 (英) 仏士の落穂拾い ハーン 一八三  
14 (英) 仏の国から ハーン 一八三  
15 (英) 日本雄集 (初版) ハーン 一八三  
16 (英) 日本の経由世界の旅 マール 一八三  
17 (英) 日本色彩画集 メンペス 一八三  
18 (英) 日本国見聞記 ホランド 一八三  
19 (英) 日本での日々 ロイド 一八三  
20 (英) 日本研究 (第一巻・自然と人民) ライン 一八三  
21 (英) 古今日本 ローテラー 一八三  
22 (英) 日本美術史 (第三卷) 写真・挿絵多数入 一九七  
23 (仏) 日本見聞記 ホランド 一九八  
24 (英) 日本での日々 ロウエル 一九九  
25 (英) 日露戦争概説 (第一巻) ロス 折込地図付 一九九

27 (英) 日蘭関係史 (一九〇五年より今日迄) クレフエンズ 一九一  
28 (英) 日本の真髓 スコット 一九三  
29 (英) 日本・台湾一瞥の旅 フランク (写真多数入) 一九四  
30 (英) 日本宗教史 姉崎正治 一九五  
31 (英) フランス人の見た日本 ロンドン 一九六  
32 (英) 日本文化誌叢 刊号 (三号) 上智大学 一九六  
33 (英) 須恵村―日本の村落生活 エムブリー 一九九  
34 (英) 日本滞在十年の記 グリュー (日本大戦時) 二〇〇  
35 (英) 日本神話の源 ヌマザワ 二〇一  
36 (英) 西洋と日本 サンソン 二〇二  
37 (英) 近代日本農業史 スミス 二〇三  
38 (英) 芸者と極東のその種の女性たち ジョス 二〇三  
39 (英) 下田物語 スタットラー 二〇三  
40 (英) 台湾誌 (初版) キルヒエル (宗教・風俗・多數人) 六三  
41 (英) 台湾誌 (含日本記) サルマナザール 一七五  
42 (仏) イエズス会書簡集第七集 (オランダ・中国編) 一七七  
43 (仏) マカートニ伯支那使節記行ストートン (仏原文全五冊) 一七七  
44 (英) 中国史話 マーレイ他 一七七  
45 (英) 中国図識 ポーティエ 一七七  
46 (英) 中国人研究 デービス 小型本 一七七  
47 (英) 中国誌 キド 一七七  
48 (英) 萬唐人物 ランドン 一七七  
49 (英) 支那・印度史 コーナー 一七七  
50 (英) 中国全誌 ジラエル 一七七  
51 (英) 中国での生活 ミルネ 一七七  
52 (英) 中国の景教 ユック 一七七  
53 (英) 中国の生活 ドリットル 一七七  
54 (英) 中国の生活 ドリットル 挿絵多数入 一七七  
55 (英) 中国全誌 ロードユール 一七七  
56 (英) 北京と北京の住人 レニイ 一七七  
57 (英) 中国と中国人 ネビウス 一七七  
58 (英) 中国の宗教 オリファン (仏訳版) 一七七  
59 (英) 中国の宗教 レッジ 一七七  
60 (英) 中国の宗教 ドグラス 一七七  
61 (英) 中国 N.Y. 一七七  
62 (英) 神秘な花の国 ハルコンベ 挿絵写真多数入 一七七  
63 (英) 中国史 マックガウン 上海刊 一七七  
64 (英) 中国史 ボルジャ (新增補版) 二冊 一七九  
65 (英) 揚子江流域紀行 (初版) ピンヨン (バード) 一七九  
66 (英) 中国生活の研究 ビーバー 一七九  
67 (英) 中国農村生活の研究 スミス 一七九  
68 (英) 中国の衰退 ベレスフォード 一七九  
69 (英) 中国総論 ウィリアムス 彩色石版口絵二冊 一九〇  
70 (英) 中国生活誌 ピーバー 挿絵多数入 一九〇  
71 (英) 北京―その歴史 ファウイエ 挿絵多数入 一九〇  
72 (英) 南京開港 ゲラード 折込地図付 一九一  
73 (英) 青い支那の国 リットル 挿絵多数入 一九一  
74 (英) 北東アジア調査記 ホウズ (宗教・風俗・多數人) 六三  
75 (英) 大清国ブルームホーリー編 一九一  
76 (英) 中国の最初の大使 マカートニ二傳 一九一  
77 (英) 中国の素顔 ケンブ 色彩挿絵入 一九一  
78 (英) 北支那遠征記 リットル 一九一  
79 (英) 中国の生活五十年 リットル 一九一  
80 (英) 西太后治政下の中国 ブランド他 一九一  
81 (英) 中国徒步旅行 ディングル 挿絵多数入 一九一  
82 (英) 女性の見た中国 ガウント 一九一  
83 (英) 中国の家庭と商法 ジヤミスン 写真表地図入 一九一  
84 (英) 漢蘭德 ブランド 団版多数入 一九一  
85 (英) 中国人の生活 バル 挿絵多数入 一九一  
86 (英) 台湾島衛生事情 高木 写真表地図入 一九一  
87 (英) 中国の家庭と商法 ジヤミスン 写真多数入 一九一  
88 (英) トキン高地民族調査報告 アバディン 团版多数入 一九一  
89 (英) 中国見聞記 リットル 挿絵多数入 一九一  
90 (英) 鏡の中の中国 エスコウ 挿絵多数入 一九一  
91 (英) 中国の劇場と民族音楽 ゲルハート 一九一  
92 (英) 中国の神秘な“五”的話 ゲイル 一九一  
93 (英) 中国の文化小史 ウィルヘルム 一九一  
94 (英) 满洲の地理 メルツアーツ 挿絵多数地図付 一九一  
95 (英) 满洲事変の起り クラーク 一九一  
96 (英) 满洲と日本帝国 ツェンゲン 一九一  
97 (英) 台湾の風物 スリミング 写真入 一九一  
98 (英) 以上掲載の書名は必ずしも原題どおりの和訳ではありません。著者及び原題をお問い合わせ下さい。折返しご返事致し

四五六









# 仏事大鑑

宇野弘願編著 仏事とは何か！葬送儀礼を中心各法要の作法と心得についてわかりやすく説明かす。更に布施・法名戒名・数珠や仏壇本尊等についても詳細に解説する。

●B5・上製函入 1200円

# 改訂増補墓相大鑑

矢島脩仰著 正しき墓相、墓の在るべき姿を、設計図例など写真・図版を多用して具体的に説明するお墓の百科事典。改訂に当り名墓録を大幅増補、新たに用語解説を付す。

●B5・上製函入 1200円

# 地相・家相大鑑

中村茂樹著 伝統と科学に基づき、迷信・邪説の多い地相・家相論の今日における意味を實際面から検討、写真・図版を多用して具体的に説明した家づくりの参考書。

●B5・上製函入 800円

# 東洋学関係目録集第一

秋山國三先生追憶会編 故秋山國三(同志社大学教授)を追憶する、古代より近・現代に及ぶ京都のまちの歴史論集。執筆者・仲村研、朝尾直弘、安岡重明ほか十六名。

●A5・上製函入 700円

葉書にて御照会下さい。

ます。

〒604 京都市中京区寺町通三条北  
振替 京都 五三八番

其

中

堂

# 京都地域史の研究

川越泰博編 「東洋学関係雑誌目次索引類集合目録」「東洋史研究叢刊細目次類輯」「中国関係辞典簡目」「中国正史志書研究文献目録」「青丘学叢」総目次・筆者別索引」を収録。

●A5・上製函入 700円

# 茶席の禅語 註訓 禅林句集

A6 四五六頁  
二、〇〇〇円 〒160円

西部文淨著

# 柴山全慶老師輯

A6 四五六頁  
一、五〇〇円 〒160円

葉書にて御照会下さい。

ます。

〒604 京都市中京区寺町通三条北  
振替 京都 五三八番

其

中

堂

# 佛教学への道しるべ

B6 判 250円 〒200円 三六〇頁

大谷大学佛教学会編 佛教学に关心を抱き佛教への正しい理解を求めている人々に、インド、中国、日本佛教及びインド学への入門のよき指針として大谷大学佛教学会が世に送る佛教学の手引き書。本書により広大な佛教学的研究の野に誘い導き入れられるであろう。

## 内 容 目 次

第一編	インド佛教研究への道しるべ	第一編	中国佛教研究への道しるべ
原始佛教	原始佛教 外國の文化	舟橋一哉	舟橋一哉
戒律佛教	佐々木現順	アビダルマ佛教	アビダルマ佛教
大乘經典	大乗經典	櫻部建	櫻部建
唯識佛教	唯識佛教	安井広濟	安井広濟
インド佛教史	チベット文献	稻葉正就	稻葉正就
第二編	中国佛教研究への道しるべ	第二編	中国佛教研究への道しるべ
1 中本国佛教研究法私見	2 読解力の養成・必読すべき經論	1 中本国佛教研究法私見	2 読解力の養成・必読すべき經論
舟橋一哉	横超慧日	舟橋一哉	横超慧日
佐々木現順	横超慧日	3 概説書・参考書・基礎資料	3 概説書・参考書・基礎資料
大乗經典	大乗經典	櫻部建	横超慧日
唯識佛教	唯識佛教	安井広濟	横超慧日
アビダルマ佛教	アビダルマ佛教	舟橋一哉	舟橋一哉
大乘經典	大乘經典	櫻部建	横超慧日
アビダルマ佛教	アビダルマ佛教	舟橋一哉	舟橋一哉
第三編	インド学研究への道しるべ	第三編	インド学研究への道しるべ
4 學会誌と論文集	4 學会誌と論文集	4 學会誌と論文集	4 學会誌と論文集
インド学散策	インド学散策	雲井昭善	雲井昭善
日本佛教研究文献要覧	日本佛教研究文献要覧	白土わか・坂東性純	白土わか・坂東性純
第四編	日本佛教研究文献要覧	白土わか・坂東性純	白土わか・坂東性純

〒604 京都市中京区寺町通三条北 文榮堂書店 振替 京都2948 電話(075)231-4712

# 典医の歴史

三月末刊行

山田重正著

本書は典医という医の専業者の歴史にはじめて通史としての照明をあてたものである。典薬寮を中心にして活躍し、日本医学界のリーダーであった彼らの軌跡を追うことにより、日本医学史に新鮮な一分野を提示する。

内容目次

A5判・五一〇頁  
四、八〇〇円

第一章奈良時代 第二章平安時代  
第三章鎌倉時代 第四章南北朝時代  
第五章室町時代 第六章安土・桃山  
時代 第七章江戸時代

# 京都の医学史

全二巻

四月上旬  
刊行

京都府医師会編

本書は山脇東洋、曲直瀬道三、新宮涼庭など数多くの著名な医師を輩出した京都の医学史を体系的に編纂。古代医学より近代医学に至るまで、その歴史的背景を考察する時、本書は取りも直さず日本の医学史といえるであろう。

(編集委員)

本文篇 一、五〇〇頁  
資料篇 六〇〇頁  
三〇、〇〇〇円

〈分売不可〉  
山田重正・横村庄一郎

思文閣出版

京都市左京区田中閑町二・七／〇七五・七五一・一七八一  
東京都千代田区三崎町二・二〇／〇三・二六三・六三四八

八木書店

〒101 東京都千代田区神田小川町三一八  
電話〇三・二九一・一九六五代 振替東京四・一〇四五五

## 珍本商が語る古書蒐散史 —古書肆の思い出

# 天理図書館の善本稀書

弘文荘主 反町茂雄著

「天理図書館善本叢書」(月報)に六年間にわたって連載した著者の「思い出の中から」は、はやくから各方面の読者的好評を博して単行本にまとめるようにとの勧奨を受けていました。昨年三十九章をもつて一応まとめましたので機会に、著者に乞うて、関連の五つのエセーとさらに三つの新稿をくわえて、「天理図書館の善本稀書」として発行いたします。

内容は日本第一の貴重書・珍籍の宝庫として、世界的に有名な天理図書館の蒐集秘話集第二次大戦後の、社会的混乱期における旧公卿・大名・富豪の秘庫の開放・離散、數十数百の国宝・重要文化財の古書の、発見・流転、そして定着、にいたるまでのプロセスの、当事者による正確な記述です。と同時に、空前の大コレクター天理教真柱故中山正善氏、およびその周辺の、たゆまざる追求・苦心・努力の、ヴィヴィッドな描写でもあります。実名・実数を惜しまず出した独自の文体。

著者は、中山正善氏の終生の蒐集伴侶としてユニークの人。自身が蒐集家であり、書誌研究者であり、そして業者・貴重稀観書の納入者でもあります。天理の善本稀書について縦横に語る、最高の有資格者の一人であることは、万人の認めるところでしょう。

おそらく日本では最初の、ビブリオグラフィカル・デカメロン。御一読に値するものと確信しております。

■定価 二、〇〇〇円  
■B6判 四四〇頁 写真五〇葉 函入